平成２８年度

地域魅力化応援隊員業務報告書

＜総括表＞

地域魅力化応援隊員が

魅力ある地域づくりを応援します

益田市政策企画局人口拡大課

もくじ

(1) 平成 28 年度地域魅力化応援隊員名簿	P. 2
(2) 益田地区	P. 3～P. 6
(3) 吉田地区	P. 7～P. 10
(4) 高津地区	P. 11～P. 13
(5) 安田地区	P. 14～P. 17
(6) 鎌手地区	P. 18～P. 21
(7) 種地区	P. 22～P. 25
(8) 北仙道地区	P. 26～P. 29
(9) 豊川地区	P. 30～P. 33
(10) 真砂地区	P. 34～P. 37
(11) 西益田地区	P. 38～P. 41
(12) 二条地区	P. 42～P. 45
(13) 美濃地区	P. 46～P. 49
(14) 小野地区	P. 50～P. 53
(15) 中西地区	P. 54～P. 57
(16) 東仙道地区	P. 58～P. 61
(17) 都茂地区	P. 62～P. 64
(18) 二川地区	P. 65～P. 66
(19) 匹見上地区	P. 67～P. 70
(20) 匹見下地区	P. 71～P. 74
(21) 道川地区	P. 75～P. 78
(22) 地域魅力化応援隊員事業実施要綱	P. 79～P. 80

【地域魅力化応援隊員とは】
総務省が制度化している「集落支援員制度（特別交付税措置）」の益田市版で、地域の課題整理や住民同士の話し合いの促進等により、住民自治機能の強化を支援します。
地域魅力化応援隊員は、配置の希望があった地区振興センターに配置しています。

平成 28 年度地域魅力化応援隊員名簿

No.	配置先	活動地区	氏名	採用年月
1	益田地区振興センター	益田地区	原　　浩	平成 27 年 4 月
2	吉田地区振興センター	吉田地区	徳屋　映三	平成 26 年 4 月
3	高津地区振興センター	高津地区	桑原　利夫	平成 27 年 5 月
4	安田地区振興センター	安田地区	尼子　達夫	平成 27 年 5 月
5	鎌手地区振興センター	鎌手地区	和佐田　昭弘	平成 27 年 11 月
6	種地区振興センター	種地区	吉野　和則	平成 27 年 4 月
7	北仙道地区振興センター	北仙道地区	堀江　宗仁	平成 26 年 4 月
8	豊川地区振興センター	豊川地区	岡﨑　友臣	平成 26 年 4 月
9	真砂地区振興センター	真砂地区	岸本　真樹	平成 27 年 8 月
10	西益田地区振興センター	西益田地区	栗山　三男	平成 26 年 12 月
11	二条地区振興センター	二条地区	伊藤　浩治	平成 27 年 4 月
12	美濃地区振興センター	美濃地区	真庭　太樹	平成 26 年 4 月
13	小野地区振興センター	小野地区	山本　　勉	平成 26 年 7 月
14	中西地区振興センター	中西地区	吉賀　和之	平成 27 年 5 月
15	東仙道地区振興センター	東仙道地区	青戸　美奈子	平成 28 年 4 月
16	都茂地区振興センター	都茂地区	大谷　昭次	平成 28 年 4 月
17	二川地区振興センター	二川地区	小原　静伍	平成 26 年 4 月
18	匹見上地区振興センター	匹見上地区	大畑　　馨	平成 26 年 5 月
19	匹見下地区振興センター	匹見下地区	小島　雄二	平成 27 年 10 月
20	道川地区振興センター	道川地区	高田　純子	平成 26 年 4 月

計 20 名

益田地区

地域魅力化応援隊員　氏名　原　　浩

平成 28 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

益田地区振興センター

2. 配置年月

平成２７年４月から

3. 活動の概要

①活動の内容

○地域自治組織設立のための支援

・６月１６日　第１回益田地区地域自治組織設立準備会

昨年度の自治組織設立準備事業、地域魅力化事業の報告

本年度の自治組織設立準備事業計画の審議

地域づくりアンケートから地区の課題等を検討

・７月４日　第１回設立準備会役員会

本年度魅力化事業の審査を実施し、３つの事業を了承

自治組織を担う組織の改編について

・８月２３日　第２回設立準備会役員会

自治組織を担う組織の改編について

組織の構成員、名称について

・１０月４日　第３回設立準備会役員会

新構成員の報告

後期の準備事業のスケジュールについて

地域づくり研修について

・１１月７日　第４回設立準備会役員会

『まちづくりプランに向けて』

アンケート結果より

基本方針について

・１１月２９日　第５回設立準備会役員会
　　『まちづくりプランに向けて』
　　まちづくりプランの理念、まちづくりの基本方針について
　　組織について
・１月１８日　　第６回設立準備会役員会
　　『ワークショップに向けて』
　　内容、進行、グループ分け、役員の役割分担等を検討
・１月２６日　第２回設立準備会（ワークショップ）

「住みよいまちづくりをするためには」をテーマに、準備会の委員が３つに分かれてグループワーク（意見交換）を行った。まちづくりプラン（案）で示された３つの基本方針「歴史を活かしたまちづくり」「ふれあいのあるまちづくり」「安心安全なまちづくり」に基づいてどんなまちづくりができるか、参加者それぞれが自分の意見を出し合った。最後に各グループの代表が出された意見をまとめて発表した。出された意見はまちづくりプランに続く活動計画に活かしていくことを確認した。

○地域魅力化事業の支援
・『食』を活かした観光プログラム開発

７月１６日、11 月 10 日、農学博士堀江修二氏を招いて「益田家文書」の中から中世の食未再現部分の再現考証を実施。
２月２６日に開かれる歴食サミットで作成したレプリカを展示し、再現した祝い膳を参加者に提供する。

・第１５回歴史探訪ウォーキング事業

９月２５日　『七尾城下の７つのお宮めぐり』をテーマに１４１名の参加者を得て、実施した。今年度は１５回の節目の大会で、地区内の７つの神社を巡る約５キロのコースに汗を流した。各ポイントでは益田観光友の会のみなさんから神社の歴史などについて説明を受け、レクリエーション協会のみなさんのお世話でゲームを行った。

ウォーキングのあとは御土居鍋のサービスと豪華景品の抽選会で参加者に楽しんでもらった。

・手作り鎧かぶと

今年度完成する３領分の手作り鎧かぶとの衣装を作成した。手作り鎧かぶと工房でこれまで完成した７領と合わせ、毎年１１月３日に開催される益田地区最大のまつり「七尾まつり」をはじめとした各種イベントで活用していく。

また歴食サミットでは鎧かぶとを着て、来訪者をもてなす。中世益田氏、益田市のよさを幅広く紹介し、知名度アップを目指す。

②活動の成果及び効果

昨年度実施したアンケートの結果を基にして、本年度はまちづくりプランの作成と平成２９年度中の設立を目指す自治組織を担う構成員の選定を主な事業として取り組んできた。第１回の自治組織設立準備会で新たに３名の幹事を加えた役員会が了承され、その役員会を中心に検討を重ねてきた。計６回の役員会の話し合いの結果、３つの柱を掲げた基本方針などまちづくりプランの骨子となるものが出来上がった。また新たに加わる委員の年代、男女比等を考慮して地区内にある様々な団体に声かけをし、新組織への参加を呼びかけることとした。

第２回の準備会として実施したワークショップでは準備会委員を３つに分け、「住みよいまちづくりにするためには」をテーマにグループワークを行った。アンケートで出された地区の課題に対してどんなことができるかなどまちづくりに対する参加者の思いを出し合った。出された意見を付箋に書き模造紙に貼ってまとめた。今後まちづくりプランに続く活動計画を練る上で大きな資料となった。

自治組織として認定を受ける準備が少しずつではあるが整いつつあることを実感している。

4. 残された課題と今後の提案

「組織」に「まちづくりプラン」と形としては整いつつあるが、これからの大きな課題は住民周知である。自治組織への取り組みも今年で３年目となるが、未だ「自治組織」という言葉すら聞いたことがないという地区住民がいるというのも事実である。自治会連合会の会合等で各自治会長への啓発などは行っているものの、単年ごとに代わる自治会長が多い中では地区住民に周知されることは難しい。

来年度は「自治組織だより」なるものを発行してアンケートの結果や自治組織に向けての取り組み状況などを知らせるとともに、「まちづくりプラン」を提案しながら、各自治会単位の説明会を開催していく予定である。そうしてできる限りの住民の理解を得ながら、平成２９年度中の自治組織設立を目指していきたい。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

応援隊員としての１年目に比べると、２年目の今年はこの１年でやるべきことを見通しながら活動することができたような気がする。ほぼスケジュール通りに事業をこなすことができた。自治組織設立のお手伝いが応援隊員としての任務だとすれば、来年度がいよいよ正念場だとして捉えている。ただ、自治会連合会や益田地区最大の祭「七尾まつり」を統括する生き生き益田の会などの現存する組織と新しい自治組織との関わりをどのように考えていけばよいのかいまだはっきりとしたものが見えてこないところもある。準備会、役員会のみなさんと協議しながら、アンケートで出てきた地区住民の願いに少しでも答えられる自治組織になるように任務を進めていきたい。

吉田地区

地域魅力化応援隊員　氏名　　徳屋　映三

平成２８年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署
   吉田地区振興センター
2. 配置年月
   平成２６年４月１日から（３年目）
3. 活動の概要
   ① 活動の内容

昨年度に引き続き、吉田地区の地域魅力化プロジェクト事業として下表のⅠ地域魅力化事業とⅡ地域自治組織設立準備事業に取り組みました。

業務名	内容	実施日程	実施体制
I. 地域魅力化事業	・ 地域の魅力を向上させる事業を“地域魅力化事業”として地区内に回覧にて公募。 ・ 応募団体への事業申請の説明会実施。 ・ 事業補助金申請書の提出。 ・ 実施団体へ事業負担金の交付。 ・ 便り等にて地区内に事業の告知、案内、地域住民への参加の呼びかけ、および事業の報告。	５月・地区内回覧にて事業募集 ６月・事業説明会 ・募集締切り ・審査会 （事業決定） ７月・補助金申請 ・実施団体へ負担金交付 ４月～３月 ・各事業実施及び成果確認 ３月・事業報告	【協働】 ・実施団体 ・「吉田の未来を考える会」準備会 ・センター職員 ・公民館職員 ・地域住民
II. 地域自治組織設立準備事業	・ 「吉田の未来を考える会」準備会において吉田地区における“地域自治組織”についての検討・協議。 ・ 地域の現状把握のため、自治会実態アンケート調査を実施、集計。その結果からのワークショップ実施。 ・ 「支え合いマップづくり」の取り組みについて研修。 ・ 地域自治組織取組先進地の広島県三次市八次地区への視察の調整および実施。 	４月～３月 ・「吉田の未来を考える会」準備会にて地域自治組織について協議及びワークショップ（計７回の会議を実施） １１月 ・広島県三次市八次地区連合自治会視察（計１４名参加）	【協働】 ・「吉田の未来を考える会」準備会 ・人口拡大課 ・センター職員 ・公民館職員

② 活動の成果及び効果

● 「地域魅力化事業」実施の事業名・内容、活動の成果と効果

事業名（団体名）	事業の内容	成果と効果
雪舟の町、観光案内とおもてなし事業（雪舟の郷元気づけ隊）	・雪舟の郷記念館・大喜庵周辺の環境美化、観光客への湯茶接待および観光案内。 ・観光客を接待する「お茶処」の設備の充実・景観の美化。 ・「雪舟の郷記念館」との共催“雪舟旬遊イベント”でおしることお茶の提供。 その取り組みの紹介や活動の様子を公民館便り、ホームページ等で地区住民へおしらせ。	大喜庵周辺の環境美化・保全活動や湯茶接待等で来場者に喜んでいただき、雪舟の町としてのＰＲ活動が出来ました。 また、「雪舟の郷記念館」との共催行事“雪舟旬遊イベント”においては、おしることお茶の接待を行い、来場者の憩いの場として、また、「雪舟」のまちとしての宣伝や来場者の増加へとつながる取り組みとなりました。 少しずつではありますが、この継続した取り組みにより、地区住民はもとより益田の“宝”としての市民の意識向上にもつながっていると考えます。
「ふれあいの町」づくり事業（久城西自治会）	・地区住民への健康体操教室を開催し、高齢者の健康維持・交流の促進を図るとともに繋がりづくりによる日常生活の様子や状況の把握。 ・自治会役員を対象とした救急法に関する基礎知識や技術の習得、また、地区住民対象の合同防災避難訓練の実施。 ・市指定災害時非難場所の備品として炊き出し用器具の購入。 その取り組みの紹介や活動の様子を公民館便り、ホームページ等で地区住民へおしらせ。	健康教室を開催することにより、会話や交流を通じたコミュニケーションを図ることが出来、地元地域で生活できる喜びを得ることが出来ています。また、普段の高齢者の様子や生活状況把握に役立っています。 取組の継続により、当自治会内だけでなく近隣自治会からの参加者との交流が増えつつあります。 防災に関しての取り組みを継続することにより、防災に関しての意識や訓練の必要性の認識が向上しています。 また、災害時炊き出し用具の購入・備えつけにより、避難所としての必要備品が充実しつつあります。

益田学シンポジウム事業 （ＮＰＯ法人久栄会）	・雪舟記念館館長・川崎由美子氏講演会開催。 ・益田の恵まれた海に面した風土について、また、石見の海での交流についての「益田学講演会」開催。	益田について様々な視点から「益田の魅力」を捉えていく「益田学講演会」の開催により「地域のあり方」「地域の魅力」を考えるきっかけとなっています。
「吉田南小学校神楽クラブ」運営事業 （多田神楽保存会）	・吉田南小学校神楽クラブへの指導により、伝統芸能である石見神楽の普及を図ると共に、継承者の育成。 ・子ども用神楽面の購入。 ・「南っこまつり」においてクラブ活動の成果発表。 事業の紹介や活動の様子を公民館便り、ホームページ等で地区住民へおしらせ。	このクラブの卒業生が、数名多田神楽保存会の手伝いを続けているように、この取り組みにより、地域の伝統芸能の伝承や地域住民、他地域との交流に繋がっています。 子供用の神楽面の購入により、子どもたちの神楽の演舞がいっそう上手にできるようになり、子どもたちの神楽に対する思いも高まりました。
「雪舟さんまつり」活性化事業	・雪舟さんまつりのイベントの一つ「小僧さん行列」において、子どもたちが担ぐ“大筆神輿”の台車の製作。また、雪舟さんまつりの象徴となっている“雪舟坐像”の台座の製作。 事業の紹介や活動の様子を公民館便り、ホームページ等で地区住民へおしらせ。	小僧さん行列に参加した幼少児・児童の“大筆神輿”を担いで練り歩く負担が軽減でき、イオン会場から大喜庵までの狭い路上での行列の安全確保、また、見守る保護者の安心感も得られました。 また、参加した子どもたちにも台車のついた神輿は好評で、今後の子供たちの雪舟さんまつりへの参加促進にもつながると思います。 “雪舟坐像”の台座が新しくなり、見栄えが良くなったことにより、普段の保管場所である大喜庵の来訪者の「雪舟さん」への関心が高まると思います。 まつり後のイオンでの“大筆神輿”“雪舟坐像”の展示もたくさんの方に好評でした。

● 「地域自治組織設立準備事業」の活動の成果および効果

今年度の会議も、引き続き吉田地区で地域自治組織を設立するとすれば、“どのような組織となるのか？”“どのような取り組みが出来るのか？”地域課題把握のための取組について「準備会」の中での協議、人口拡大課との協議を行いました。

吉田地区連合自治会の協力をいただき、地区内の自治会実態調査としてアンケート調査を実施し、自治会における地区の現状把握、課題や問題点の集約を行い、今後の準備会の取組に対する参考資料を作成することが出来ました。

地域自治組織の取組先進地視察においても、視察先の三次市八次地区連合自治会が現状の吉田地区連合自治会の取り組み内容と共通していたことから、吉田地区での地域自治組織のあり方や今後の取り組みを進めるための参考となりました。

4. 残された課題と今後の提案

「準備会」では吉田地区なりの“地域自治組織”とは？を協議していますが、現状から何が変わっていくのか？未だに、なかなかイメージ出来ずにおります。

しかし、自分たちの吉田地区が“住みよい町”となるためにどのような取り組みをしていけば良いのか、今後も知恵を出し合い協議していく事としています。

まずは、取り組むべきテーマを決め（来年度は防災をテーマ（予定））それに関わる団体や人材を準備会の構成員に加わってもらい、まずは、自分事として“本気で考えれる”準備会になることが必要だと考えています。

5. 地域魅力化応援隊員の業務を振り返って

“地域自治組織設立準備事業”に関しては、今もって吉田という地区における、“地域自治組織”の必要性やどのような組織として成り立つのかを「吉田の未来を考える会」準備会の方々と共に考え、意見交換しながら、悩んでいる現状です。

「準備会」での協議の進め方が上手く出来ずに、他地区の進行状況などから考えると、遅々として進んでいない状況に力不足、勉強不足の自分を考えさせられています。

また、今年度は“地域づくり”と“ひとづくり”に関して、各地区の地域魅力化応援隊員との情報交換、地域づくりや社会教育のための各種研修、地域自治組織の先進地視察等に参加し勉強させてもらいながらの３年目となりました。

３年目ということもあり、地区の自治会や様々な活動をされている方々と顔見知りになり関わりも増え、地区の現状やこれからの地区の在り方などについていろいろと話し合えている事は自分の中での成果であり、励みともなっています。

高津地区

地域魅力化応援隊員　氏名　桑原　利夫

平成 28 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

高津地区振興センター

2. 配置年月

平成２７年５月１日

3. 活動の概要

①活動の内容

１）地域自治組織について

・地域づくり協議会において、５ブロックに分かれて、自治会を中心に地域づくり（まちづくり）の話し合いを開催していくことが決まったことにより、取組が動き出した。

・須子ブロック、町ブロック、浜ブロックではそれぞれ話し合いの場が開かれたが、緑ヶ丘・飯田ブロックはブロック内の事情により話し合いの場が開かれなかった。

・須子ブロックは他ブロックに比べ、話し合いの場を先行して取り組んでいる。特に１２月に開催された「須子まちづくりラウンドテーブル（以下「ＭＲＴ」という。）」におけるワークショップでは大いに盛り上がり、その内容は須子ブロックの現状を捉え、未来に向けて何をするか、どうあればいいのか活発な意見交換が交わされた。

・地区全体としては、一歩一歩歩き始めた段階で、まだ先が長く、焦らず、慌てず、諦めず、じっくりと取り組み、各々の腹の中にしっかり落ちることが、今後の取組に大事なことと感じる。

そして、自主性を重んじ、やがて自立することを自覚しながら進めていきたい。

２）地域魅力化事業について

・柿本人麿公の偉業を顕彰する事業、高津やぶさめ継承事業、高津の歴史・文化・旧跡保存事業、高津花いっぱい事業の４つの事業が取組まれた。

各事業実施団体においては、前年に比べても活動が拡大された。

② 活動の成果及び効果

１）地域自治組織について

・特に須子ブロックでは、ＭＲＴ方式のワークショップが開催され、老若男女３２名の参加があり、須子ブロックのまちづくりに対して自由に活発な意見交換が行われ、今後のまちづくりに続くものと確信する。他ブロックでもこのことを参考にして進められたら、実に面白いものになると感じているため、他ブロックにも波及したい。

２）地域魅力化事業について

特に、柿本人麿公の偉業を顕彰する事業では、バスツアーで江津市の人

麿顕彰会との交流会を開催、高津の歴史・文化・旧跡保存事業では、高津小学校の児童に対して高津十景の出前講座を実施、高津やぶさめ継承事業では、津和野町の流鏑馬保存会との交流や文化展に出展、高津花いっぱい事業では、各種イベントに花の持ち寄りや小中学校と連携して花の植付などといった４つの事業を通して、交流人口の拡大や子どもたちへの伝統文化継承への意識を醸成するとともに、地域の活性化・賑わいに繋がる効果があった。

4. 残された課題と今後の提案

１）地域自治組織について

・地域づくり協議会で、今後も話し合いをしっかり取組むことが肝心であり、地区住民間におけるお互いの理解を深め、共通認識を更に高めるようにしたい。

・５ブロックの取り組みにスピードの差があるが、粘り強く波及するとともに、地区住民に対する周知を図りながら、理解を深めていく必要がある。

・須子ブロックについては、地区内問題・課題の抽出が見えはじめ、新たな一歩が踏み出せる状況であり、今後の活動に期待が持てる。

・今後もまちづくりを進めるためにも更に協議を重ねながら、取り組むべき課題を抽出したい。また、まちづくりを進めるうえでは、地区住民の自主性を引き出しながら取り組んでいく必要がある。

２）地域魅力化事業について

・事業実施団体において、今後は、今まで以上に活動の幅を広げ、事業に関わる人材を増やすためには、魅力的で新しい企画を盛り込むことによって、より一層効果が出ると思われる。方法としては、一つは、より広域からの参加を図る、２つ目は幅広い年代層に呼びかけて若者層を増やす、そして、みんなで知恵を絞って取組むことが考えられる。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

地域魅力化応援隊員の活動として、2 年目を迎えたが、地域づくり協議会の取組が少しずつ主体的に取り組めるようになったと感じている。

地域自治組織の設立に向けた取組では、須子ブロックが動き出し、町ブロックもそれに追随する様子がある。浜ブロックは、話し合いの場をつくることにまだ時間がかかる様子だが、意識し始めている。

そうした中で、いずれのブロックにおいて、取組の時間差はあるが、少しずつ取組が動き出していると感じている。

魅力化事業では、各々の活動が昨年と比べて活動の幅が広がったと感じているが、更に活動内容と活動範囲の幅を広げれば、地域活性化の成果に確実に繋がると思われる。

【高津地区魅力化事業】写真報告

高津の歴史と文化を語る会

高津小学校出前講座風景（９月）

教西寺での講演会（１１月）

柿本人麿公顕彰会

バスツアー（１１月）

人麿クイズウォーキング（１０月）

流鏑馬保存事業

やぶさめ（９月）

文化展での特別展（１１月）

老人クラブの花いっぱい活動

植えつけ作業（１０月）

文化展展示（１１月）

安田地区

地域魅力化応援隊員　氏名　尼子　達夫

平成２８年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署
   安田地区振興センター
2. 配置年月
   平成２７年５月から
3. 活動の概要
   ①活動の内容
   地域自治組織設立支援事業
   ・平成２９年４月までに『地域自治組織』の認定に向け「地域づくりプラン」「地域づくり計画」の策定、規約の整備を図るため、毎月一回の企画会議で話し合いを重ねた。「地域自治組織認定に向けた住民説明会」を各地区で開催し、平成２９年３月１８日に設立総会と講演会を開催し、地域自治組織の設立が承認された後、益田市の認定を受ける計画である。
   ・先進地視察先に「周南市須々万地区まちづくり推進協議会」を選定し、１８名が参加し先進地の取組を学んだ。人口規模は似通っているが、この地区は工業地帯に近いことから、当地区と事情が違うが、少子高齢化問題は共通した課題であった。須々万地区では、「すすま夢プラン」を策定し、住みよい街づくりに向けて取組を展開されいるが、収益事業を行っていないため、逆に当地区が取組んでいる「地域お助け隊」に興味を持たれた。

H28.5.17「地域づくり協議会総会」
出席者：構成員 28 名振興センター2 名

H29.1.20「第十回企画委員会及び役員会」
出席者：5 名振興センター2 名　益田市 2 名

H28.11.28「須々万地区まちづくり推進協議会」視察参加者：18 名

H28.11.20「地域自治組織設立に向けた住民説明会」　参加者：60 名

地域魅力化事業

（1）やすだ村ええもん市事業

安田地域で農産物、手作り品などの販売を通して農産物の生産、加工、独自商品の開発などを行い地域住民の生産意欲を高めるとともに地域の活性化を図る。

『やすだ村ええもん市』開催

第一回　H28. 6.26（日）AM9 時～11 時　出店者：22 名　来場者：約 250 名
第二回　H28.10.16（日）AM9 時～11 時　出品者：19 名　来場者：約 200 名
第三回　H28.12.18（日）AM9 時～11 時　出品者：22 名　来場者：約 250 名

（2）地域お助け隊事業

地域の高齢化が進む中、自分で作業することが出来ない住民に代わって有償で草刈り作業などを代行する「地域お助け隊」を結成して 2 年目を迎えた。地域お助け隊は、住民が安心して暮らせる環境づくりを目指すとともに、作業を担っていただく住民の所得向上と生きがいづくりに繋げることを目的に取組を始め、今年度も「今年もやりますよ」と「作業員募集」のチラシを安田地域全戸に配布した。

現在の登録作業員は、男性 15 名、女性 5 名の登録があり、H28.4 月から 1 月まで作業受注状況は 52 件で、内草刈伐木作業が 30 件、庭木刈込 12 件、墓地清掃 5 件、その他 5 件の内訳となっている。

（3）史跡・遺跡整備事業

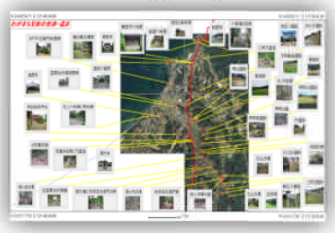
永年、旧山陰道の整備を行い、歴史の伝承事業に取り組み、保存してきた先駆者たちの業績を周知することで、地域の方に安田人としての誇りを持たせる。

今年度は、旧山陰道と丸山公園の草刈りを年二回実施した。

木部境～津田峠橋、寺町～鹿田峠、大和ゴム～東町境、丸山公園、四地区で作業。

第一回目：H28. 6.19（日）AM7：00～8：00　　参加者：24 名

第二回目：H28.10. 6（日）AM7：00～8：00　　参加者：21 名



また、地理情報システム（以下「GIS」という）を使って史跡・遺跡マップづくりに取組み、「わがまち安田の史跡・遺跡」のパンフレットが完成した。

（4）地域環境整備事業

地域の環境美化をすすめ、住民が明るく快適に生活できる環境をつくる。

・遠田川河口付近の雑草の刈り払い、焼却、漂流物の回収除去

第一回目．H28.6.6（月）6.15（水）　参加者．3 名

第二回目：H28.9.19（月）6.21（水）　参加者：3 名

第三回目：H29.1..13（金）1.17（火）1.31（火）　参加者：3 名

②活動の成果及び効果

地域自治組織設立支援事業

・「企画委員会」を中心に、H28 年より毎月一回開催し、「地域づくりプラン」「活動計画」「規約」を念入りに計十二回の協議を重ね、策定することができた。今年度中の地域自治組織認定を目指すことを委員間で共通した認識を持って進められた。また、話し合いをすることで各事業の計画、実行、検証がスムーズになり各委員相互の理解を深めながら取組を進めることができた。

・策定した「地域づくりプラン」「活動計画」「規約」について各地区で説明会を開催し、地域自治組織認定に向けて住民周知の拡大に努めた。
・周南市須々万地区の先進地視察を行い、他地域の課題を知ると同時に、安田の取組が進んでいることも知ることができた。
・地域自治組織の認定に向け設立総会を３月１８日に開催し、総会終了後、島根大学の作野教授を招いて「地域自治組織の可能性と地域づくりの具体像」について講演していただく事が決定している。

地域魅力化事業

・「やすだ村ええもん市事業」では、安田地区はもとより種地区、北仙道地区からも出店をいただき取扱品種が増え、地域間交流も盛んになった。また、東陽中学校の生徒さん数人が毎回ボランティアで販売に参加され、販売体験を通じてジュニアリーダー育成につながっている。
・「地域お助け隊事業」は今年度で二年目を迎え、知名度も上がり地域の皆さんから草刈、伐採などの依頼が予想以上に増えており、いかに皆さんが地域の環境維持整備に困っているかがわかる。また、作業を担当する地域の方にも若干ながら収入が増え生き甲斐づくりにも寄与している。併せて、お助け隊のメンバーが草刈機やチェンソーの安全講習に参加し、受講費用に係る補助ができた。
・「史跡・遺跡整備事業」では、旧山陰道円山公園の草刈作業を年二回行い、歴史的遺産を残す意義が感じられた。また、本事業では、GIS を使った史跡・遺跡マップを完成させ、今後、地域の情報発信に繋げていく。併せて、国東治兵衛の案内看板の改修も取組んだ。
・「環境整備事業」は、補助金対象事業ではないが、生活環境維持上欠かせない作業として、遠田川と嶽川の草刈、海洋漂流物の除去を継続して取り組んでいる。また、これにかかる人的経費は地域お助け隊事業の利益から賄うことで地域への還元が出来ている。

4. 残された課題と今後の提案

「地域自治組織設立準備事業」では、住民アンケートの結果を基に「地域づくりプラン」「活動計画」を策定し、「規約」の見直しを行った。策定したプラン等を住民に周知するため、住民説明会を各地区で開催している。3月１８日には設立総会を開催し承認を得た後は、市に対して地域自治組織の認定申請を行うこととしているが、地域自治組織の認定後、地域住民のためになる活動をいかにして展開していくかが課題である。

「地域魅力化事業」では、やすだ村ええもん市をもっと発展させ、コミュニティ施設を兼ね備えた常設の販売所設置が目標である。史跡・遺跡整備事業では、完成した「やすだの史跡・遺跡マップ」を利用してウォーキングなど情報発信に努める。地域お助け隊事業の請負業種をもっと拡大していくことが目標である。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

応援隊員として２年目を迎え、この一年間充実した日々だった気がしている。地域の皆さんの強力な理解のもと企画委員会で毎月協議を重ね、また、住民説明会も何度か開催し、やっと地域自治組織の認定を受ける準備が整った。魅力化事業も順調に活動が展開されており、今後は地域自治組織として地域住民のためになるよう「安田地域づくりプラン」を少しずつ進展させていくよう努めたい。

鎌手地区

地域魅力化応援隊員　氏名　和佐田　昭弘

平成 28 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署
   鎌手地区振興センター
2. 配置年月
   平成２７年１１月から
3. 活動の概要

①活動の内容

《地域魅力化事業》

（１）唐音水仙公園特産品販売促進事業（２）鳥獣被害防止対策事業（３）山陰道整備・ウオーキング大会事業（４）健康増進対策事業

《地域自治組織設立準備事業》

・協議会の全体会５回開催・ワークショップ２回開催・先進地視察研修会の実施（山口市仁保地区、道の駅仁保の郷）

②活動の成果及び効果

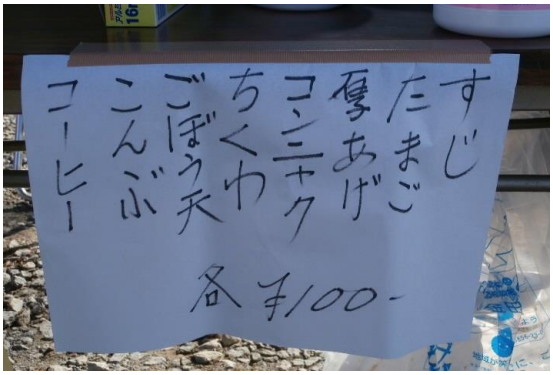
《地域魅力化事業》

（１）唐音水仙公園特産品販売促進事業

平成２８年１２月２５日（日）、唐音水仙公園で地元商店３店舗協賛（野崎さん、シルバーウエーヴさん、横道会さん）による地元食材を使用した料理（おでん、コーヒー、鯵のつみれ汁、サザエ飯）等の販売を行った。尚、水仙公園では今迄各種販売実績が無く、来園されたお客様からも飲料や食べ物が無く寂しい声が聞かれていたが、今回の取組により、来園者からは大変喜ばれた。尚、この事業は１月１６日までの間、土日を基本に開催した結果、交流人口の拡大及び鎌手地区地元業者へ売上金等の資金フィードバックに繋がった。

（期間中、協賛店舗は以下のとおり）

①野崎さん②シルバーウエーヴさん③横道会さん



（２）鳥獣被害防止対策事業

新規狩猟免許取得希望者を募り、免許取得にかかる費用の一部支援を実施した。

（該当者２名、野村一郎様・野村泰二様）

鎌手ふるさとおこし推進協議会に対し、箱罠購入

代金 54,800 円の内、30,000 円の補助を行った。狩猟免許取得者２名が増えたことで、有害鳥獣の捕獲増が期待でき、箱罠が１台追加設置したことで、水仙公園の有害鳥獣捕獲増に今後期待していきたい。

（３）山陰道整備・ウオーキング大会事業

平成 28 年 10 月 23 日（日）『近世山陰道を歩こうウオーキング』と称してイベントを開催し、山陰道保存会を中心に、今年度も歩きながらの景観を楽しみ、史跡探訪も併せて行った。開催当日の昼食時には、鎌手峠において、『つみれ汁・むすび』等の提供を行い、地区内はもとより益田市内県外からも多数参加者があり、合計で７１名の参加者となった。

尚、予定人員８０名を計画し準備を進めてきたが、参加者７１名とほぼ計画どおりの参加人員となった。これについては、山陰道保存会や公民館職員が協働し､イベント実施に向けて募集を行ってきた成果であると考えられる。

また、鎌手地区以外のお客様も全体参加者の約６０％もあり、イベント自体は成功したと考えている。

（４）健康増進対策事業

昨年度に引続き、鎌手地区内において、高齢になっても長期に亘り健康的な生活を送ることと、日常的な健康管理、また、元気な時期から身体を動かしていくことでストレス防止や寝たきり老人を発生させない地域を目指していくことを目標として、健康増進体操教室を行った。

○アンケート調査結果での主な意見

・体操を続ける事が改めて大事だと感じた。⇒とても解りやすく勉強になった。
・楽しい時間を有難うございました、自宅に帰っても中々続ける事が出来ませんが、どうにか思い出しながら一つでも実行したいと思う。
・自分は思うように身体が硬いせいで動けないが、先生の指導で少しずつではあるが、足腰が動けるようになった。これからも機会があればぜひ参加したい。

※以上、健康増進体操教室に参加された殆どの皆さんが、身体が軽くなったとか、無理がない体操で楽しかった等々の意見が大半で、次年度もぜひ開催して欲しいとの要望が多く寄せられた。

《地域自治組織設立準備事業》

・全体会一回目 6/23、二回目 8/22、三回目 11/22、四回目 1/17、五回目 3 月開

催予定、視察研修 10/13、ワークショップ一回目 10/20、二回目 12/15
上記のとおり、年間を通じて、事業計画どおりほぼ順調に取り組んだ。

・特に四回の全体会を通して感じた事は、自分達で自治組織を作っていこうとする意識の低さが見られたが、今年度初めて２回のワークショップを開催したところ、自分達で地域を何とかせねば、地域の荒廃に繋がっていくといった危機感が少数意見ではあるが、出始めてきており、前向きで積極的な意見交換が出来つつあることで、徐々に兆しが見受けられるようになってきた。これは、会議の進行がセンター職員ではなく、第三者による進行によるものの影響であると考えている。

①全体会一回目 6/23 開催時協議内容

・平成２７年度地域魅力化応援活動及び、各事業実績報告
・平成２７年度地域自治組織設立準備事業及び、地域魅力化プロジェクト事業決算報告
・平成２８年度地域魅力化プロジェクト事業計画書、平成２８年度地域自治組織設立準備事業（案）
・視察研修の可否について

②全体会二回目 8/22 開催時協議内容

・平成２８年度地域魅力化事業計画書及び、予算書の承認について
・平成２８年度地域自治組織設立事業計画書及び予算書の承認について
・先進地視察について
・フェイスブック「水仙の里かまて」の、ロゴマーク募集にかかる審査お願いについて
・次回開催について
・ワークショップの開催及び地域自治組織設立に関する今後のスケジュールについて

③全体会三回目 11/22 開催時協議内容

・平成２９年度以降、地域自治組織設立に向けた具体的スケジュール作成について
・下期事業の取組みについて
・次回協議会開催について（１月開催予定）

④全体会四回目 1/17 開催時協議内容

・平成２９年度地域自治組織設立に向けた具体的スケジュールの確認について
・平成２８年度ワークショップ２回開催における経過報告について
・次回協議会開催について（３月開催予定）
※平成２８年度各事業実績報告について協議予定

⑤ワークショップ一回目 10/20 開催時の協議内容

・地域の課題解決について
・課題解決にむけての取組み
・まとめ
・その他（フェイスブック、ロゴマーク審査について）

⑥ワークショップ二回目 12/15、開催時の協議内容
・地域の課題について（前回開催時の協議内容・まとめ別紙）
・課題解決にむけての取組み（別紙）
・全体まとめ
・その他

4. 残された課題と今後の提案

現在、鎌手地区はステップ２～３の中間点の位置であると考えられる。

今年度は、事業計画策定の中で、最終形である（ステップ４）地域自治組織設立目標年度を、平成３０年度と設定した。尚、個人的主観としては、昨年度よりゆっくりではあるが、徐々に計画通りに進んできていると思っている。

然しながら、現在の地域自治組織に携わる役員の任期が平成２９年３月３１日で終了することが課題である。ただ、数人の役員方は残留していただけると考えられる為、それら役員の方々が中心となって、地域自治組織設立に向けてステップを徐々に上げていくしか方法がないと考えている。

また、ワークショップ会議の中でも方法論等で提示があったが、まず鎌手地区で誰がいるか、また、リーダー的な存在である「人」の発掘調査を次年度の早い段階で行う必要が急務であると考える。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

今年度は２年目となったが、地域魅力化事業と地域自治組織設立準備事業の事業計画で四苦八苦しながらも、何とか順調に事業計画を遂行できたと感じている。

特に、新規事業として「唐音水仙公園特産品販売事業」と「旧山陰道整備ウオーキング大会事業」は、自分自身としてもとてもやりがいがある事業であった。

唐音水仙公園特産品販売事業は、地元業者３店舗（当初は５店舗参加予定）であったが、今迄水仙公園では仮設トイレがあるだけで、売店が一つもない中、今回、水仙の見頃期間中である１２月中旬～１月中旬までの間に土日を基本に販売活動ができたことで、更なる観光客の集客アップに繋がっていると考えている。

また、旧山陰道整備ウオーキング大会事業は、今迄の地区内だけの取組みから範囲を広げ、益田市内及び知り合いを通じての県外への声掛けで、予定参加者の８０名に近い７１名の参加者をいただき、各名所付近での史跡説明のあと、昼食時には鎌手峠において、『むすびとつみれ汁』を無料提供したことで、参加者からは大変喜ばれ、来年もぜひ開催して欲しいといった声を沢山戴いた。併せて今回実施した「唐音水仙公園特産品販売事業」を足がかりとして、地域自治組織設立の道筋が着いていく事を期待したい。

種地区

地域魅力化応援隊員　氏名　吉野　和則

平成２８年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署
   種地区振興センター

2. 配置年月
   平成２７年４月から

3. 活動の概要
   ① 活動の内容

［ 地域自治組織設立に向けて ］

平成２７年度末を目標に地域自治組織設立に向けて、その母体である『種むらづくり推進協議会』（以下協議会）の委員会で活動計画の基本となる「まちづくりプラン」の策定を図る。

同時に協議会の規約を基に、地域自治組織設立後の新組織の規約を委員会で協議し原案を作り、協議会の総会で承認された。

「まちづくりプラン」及び「規約」を冊子にして全地区民に配布、周知を計画する。

種むらづくり推進協議会委員会

[地域魅力化事業]

本年度地域魅力化事業として『手作り石窯』の承認を得た。

地区内有志（若者を中心）による石窯製作プロジェクトチームを設立し、製作日程や完成後のイベントを協議する。

石窯製作により多くの参加、関心を得るためにフェイスブックあるいは地域内広報で、進捗状況を知らせる。

石窯製作会議

[あじさい園の保全整備]

地区内の観光資源として、『川下さくら公園』と『奥田あじさい園』がある。管理者のいないあじさい園は、猪に荒らされ笹竹に侵食されつつある。持続可能な観光資源とするためには、定期的な保全と環境整備が必要である。

奥田あじさい園

② 活動の成果及び効果

[地域自治組織設立に向けて]

協議会の活動計画の柱となる「まちづくりプラン」及び規約の準備は整った。また、それらを協議する過程で委員間での方向性の統一ができた。

[地域魅力化事業]

今回の石窯製作事業により、人々が自由に集える場づくりを念頭においた。

製作過程において自由な参加を集い、少なくとも共通な関心を得ることはできた。

また、ピザ石窯を利用したイベントの発案もあり、活動が持続可能となる。

石窯製作を手伝う保育園児

[あじさい園の保全整備]

定期的にあじさい園を整備した。剪定、肥料、笹の駆除、園内の立木の伐採等により花の色が鮮やかになった。

順路を示した看板、雑草を刈る事によって園内の散策がより広範囲に可能となった。

認知度が高まる事より、より多くの来園者を期待する。

あじさい園の順路看板

4. 残された課題と今後の提案

[持続可能な地域自治組織]

本年度、地域自治組織設立を断念したのは以下の理由による。設立後に整備するという意見もあるが、可能な限り不安要素は払拭しておきたい。

旧種中学校校舎（倉庫として活用）の解体と新築、及び２９年度の振興センター耐震工事

倉庫解体作業

これにより、自治組織設立後の協議会事務局の拠点が確保できない。また、委員会会議等の会場が確保しにくい。

社会福祉法『ひれふり苑』のおこなう社会貢献事業との調整

ひれふり苑

社会福祉法の改正により、社会福祉法人は地域への社会貢献を積極的に行うことになった。

当地区を包括事業エリアとする介護施設である社会福祉法人『ひれふり苑』が社会貢献事業として各種高齢者福祉ボランティアを計画している。

このことは、当協議会の活動計画と重複する事業もあり、調整を必要とする。また、該当する北仙道及び安田地区との連携も必要となり、充分な話し合いを持つべきで、そのための期間を必要とする。

地域自治組織事務局を担う人材不足

地域自治組織設立後、規約で主たる事務所を種地区振興センター内とし、事務局員を置くと規定している。しかし、現状では事務局を担う人材がいない。当地区振興センター職員（市の嘱託職員）である地域魅力化応援隊員が事務局員として担うことは好ましくない。

ただし、事務局員が確保できる見通しができた時点で、暫時応援隊員が事務局員を代行することは協議会として可能であると考える。

[地域魅力化事業]

本年度魅力化事業として石窯を製作した。石窯を製作することが事業の目的ではなく地域活性化の一つの方法として捉えている。

今後、石窯を活用したイベントを実行することによって、地域外交流あるいは世代間交流がより盛んになることを期待する。

石窯によるピザ試し焼き

[観光資源の整備と保全]

地域の共通財産として認識のある『川下さくら公園』『奥田あじさい園』『烏帽子・平家岳登山道』の整備と保全は地域の人々のボランティアで成り立っている。

ところが人口減少による担い手不足から、細やかな整備保全が難しくなってきた。今後地域外の人材を参画させる方策を早期に考えるべきである。

川下さくら公園

5.　地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

我々地域魅力化応援隊員は、地域魅力化プロジェクト事業及び地域自治組織設立のための支援をその業務としている。

各地域の実情を考慮すると、全地区の地域自治組織設立の時期を同一にすることはできないが少なくとも気運の停滞があってはならない。

本年度、種地区は地域自治組織の設立を断念したが、決して停滞とは考えてはいない。地区民、特に協議会各委員において、地域自治組織設立の有効性の認識は、昨年より確実に高まっている。とりわけ社会関係資本（Social Capital）の蓄積は昨年よりなされている。

まなびや工房キヌヤ出店

事業を遂行するとき、人・物・場のいずれも必要十分条件であり、とりわけ、人材の育成なくして事業の成功はありえない。また、持続可能な地域自治組織であるためにはトップダウンでは脆く、ボトムアップすることで可能となる。行政主導の地域自治組織設立は容易である。ただし、それでは今までと何ら変わりなく、ただの看板のすげ替えにすぎない。

ボトムアップ型の先進事例として、徳島県神山町の『人形里帰り事業』や愛媛県内子町『町並み保存運動』などがある。両地区では、住民主導による活動がモチベーションを高め、その後の地域自治組織設立へと向かうことになるが、地域自治組織設立が目的ではなく自由な活動と事業遂行の障害を克服する一つの手段としての結果であった。

社会関係資本を蓄えた住民の内部からの発議は正確な問題点の把握と共通認識をもった住民目線の将来展望を目指すことができる。

我々応援隊員の職務の一つとして、発議する事例の発掘及びその提案と活動の支援もあると考える。

途絶えた千振焼

地域魅力化応援隊員　氏名　堀江 宗仁

平成 28 年度における地域魅力化応援隊員の活動について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

北仙道地区振興センター

2. 配置年月

平成２６年４月から

3. 活動の概要

①活動の内容

地域魅力化応援隊員仕上げの３年目も、昨年に引き続き「 地域自治組織設立支援業務 」と「 地域魅力化業務 」の２本柱に注力した。

●「 地域自治組織設立支援事業（ 業務 ）」

先ず前者では、昨年度実施した『 北仙道地区まちづくりアンケート 』の分析をワークショップ形式で行なうべく準備し、準備会議の委員さん共々取り組み（ 年度前半の６～８月 ）、それにプラスして

○ 「 準備会議 」の組織の充実・改変について
○ 「 部会制 」と「 役員の増員 」について
○ 「 行程表 」について

等、準備会議会長と協議を重ね、資料作成を受け持ち、基本毎月１回（ 第３水曜日 ）の準備会議に臨んだ次第である。

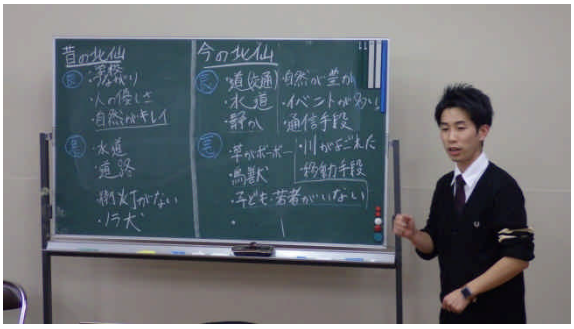
尚「 行程表 」は、当地区の「 地域自治組織 」設立を「 平成３０年４月 」と設定し、それまでの道のりを視覚化したものである。

そして９月より、いよいよ『 まちづくり計画 』策定に向けて

○ 骨子説明
○ 他地区の『 まちづくり計画 』を参考資料として提示
○ 全国各地の諸活動の紹介

をする等の活動を行なった。

年が明けての２月には、益田市教育委員会 ライフキャリア教育コーディネーターの檜垣賢一（ ひがき けんいち ）氏をお迎えして、準備会議会長の主導の下で研修を開催した。この研修は、３月２１日（ 火 ）にも引き続いて開催予定である。



●「 地域魅力化事業（ 業務 ）」

後者では、「 キャンドルライト in あかがり ＆ かかしコンテスト 」実行委員会が計画・主催された、皆さんお馴染みの赤雁の一大イベントに対し、申請面・資料作成面等で協力し、平成２８年８月１５日（ 月 ）の開催当日には参加させて頂き、主に写真撮影業務に従事すると同時に、準備・販売等のお手伝いもさせて頂いた。

又もう１点、７月の段階から話が出て、「 地域魅力化事業 」の見直しを兼ねた構想を煮詰め、高齢者の「 生き甲斐づくりと小遣い稼ぎ 」を兼ねた「 地場特産品開発事業 」、つまりは農産物等の加工事業を、「 準備会議 」中の１部会の活動として行なうこととなり、１２月中の申請、及びその後の日報・経理書類等の作成、物品購入作業等を支援し、２月中には、一部製品（ 割干し大根 ）も出荷されるようになっている。

この活動は、製造・包装作業の受託業務より開始されており、当初は利益を出すまでには至らないであろうが、地道な努力が求められるであろう。

その他、応援隊員としての各種研修に参加し、スキルアップに励むと同時に、後のフィードバックに備えたつもりである。

その主なものは、

① 補助金等事務研修会（ 平成２８年6月１６日 ）
② 波多コミュニティ協議会先進地視察調査（ 9月２８日 ）
③ 地域づくり研修（ １０月２９日 ）
④ スキルアップ研修～邑南町出羽地区視察（ １１月１７日 ）
⑤ 障害者差別解消法研修（ １２月１９日 ）

等であり、中でも②と④は非常に勉強になり、「 地域自治組織 」自体、又は別組織の「 法人化 」を学ぶ端緒に着けたように感じている。

②活動の成果及び効果

●「 地域自治組織設立支援事業（ 業務 ）」

昨年度実施した『 北仙道地区まちづくりアンケート 』の分析は、委員間でかなりな確度で共有されたと思う。故に、今後『 まちづくり計画 』を策定する上において、「 課題点・欲しいもの 」等は委員さん各個の頭の中に収容されたであろうから、これからはそれらを如何に形、文章に表して行くかに掛かっていると思われる。時間はかかったが、本活動が実質２年目の当地区においては、それなりの収穫を得させることは出来たと感じている。

また「 行程表 」は、Ａ３・１ページのものではあるが、準備会議会長の口から「 平成３０年４月には、必ず立ち上げる 」とのお言葉を頂戴しているので、それなりのプレッシャーをかける役目を果たしてくれたとも思っている。

●「 地域魅力化事業（ 業務 ）」

「 キャンドルライト in あかがり ＆ かかしコンテスト 」は今年度で１０周年となり、農村公園「 赤雁の里 」を中心とした赤雁地区の方々の永年に亘る地道な努力の賜物は、当地区への「 集客 」を促し、当事者としての地区の「 心意気 」を示し、地域活性化の「 起爆剤 」足り得、対外的には「 Ｕ・Ｉターン 」への期待及び「 北仙道の良さ 」を感じてもらい、色々と対外的に発信出来る成果・効果、そして、申請・計画書の作成等、少々煩雑な事務的手続きを応援隊員が受け持つ事によって、地元の方々が現場作業等に注力出来たであろう効果が考えられる。

「 地場特産品開発事業 」は、「 準備会議 」中の１部会の活動として行なうこととなった事が大きく、上記と同じく書類作成等、事務・購入・保険加入活動等は全て応援隊員が受け持った事で、会員諸氏はスムーズに現場作業に打ち込んで頂けたのではなかろうか。

4. 残された課題と今後の提案

先ずはさておいても最大の課題は、当初計画では本年度１０～１２月のところで『 まちづくり計画 』を策定するとしていたことが出来なかったことであろう。ただこれは、同時期に魅力化の「 地場特産品開発事業 」の協議が大きくそのウエイトを占めた事にもより、致し方なかった面もある。

前記したように、当地区の「 課題点・欲しいもの 」はほぼ把握されていると思われるので、それを基に来年度は、先ずもって『 まちづくり計画 』策定に邁進して頂きたいと思っている。

また別の課題としては、「 農事組合法人の設立 」・「 多面的機能支払の利用 」・「 草刈り隊の設立 」等の非常に有意義な計画・既事業の話が当地区内で持ち上がっており、それらはこれから「 地域自治組織 」を設立して行く上での「 核 」になって行くであろうことが期待されるのであるが、それが４自治会それぞれで検討されており、４自治会全体の試みとして糾合出来ないか。その点が私としては悔やまれる。

提案としては、その「 糾合 」という１点である。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

前職の地域力アップ応援隊員を１年、そして地域魅力化応援隊員を３年、務めさせて頂いた。

平成２６年度から「 地域魅力化プロジェクト事業 」が始まり、「 地域自治組織の設立 」という大命題を背負った訳だが、その初年度の平成２６年、前センター長（ 故人 ）の病気入退院、前連合自治会長の突然の逝去という不幸があった。

平成２７年、８月から９月にかけて島根県の「 夏季学生インターンシップ事業 」を行ない、同時期に地域魅力化事業の「 北仙道地区基礎カルテ作成事業 」（ 第２期 ）・「 キャンドルライト in あかがり＆かかしコンテスト 」・「 子供地元学 in 北仙道 」、地域自治組織設立準備事業の「 頑張ってます 北仙道！ 成果発表会 ＆ 講演会 」、そして「 北仙道地区まちづくりアンケート 」の作成・集計・報告書作成作業に追われた。

この平成２７年度は、あまりにいきなり突っ走り過ぎたように感じている。「 地域自治組織設立 」に向かうべく準備をしてきたつもりではあったが、もう少し段階を経て進めるなど、工夫が必要ではなかったかと感じたところである。

そのため今年度は、じっくりと腰を落ち着けて、前年度の『 北仙道地区まちづくりアンケート 』の分析と『 まちづくり計画 』の策定に的を絞って取り組んだというのが実態である。

ただ、私は今年度限りで当地区の応援隊員を卒業することとなった。今後は、「 北仙道地区 」の発展、そして「 地域自治組織 」の無事設立を、地区住民の１人として願い、そしてサポートして行きたいと考えている。

以　上

地域魅力化応援隊員　氏名　岡﨑　友臣

平成 28 年度における地域魅力化応援隊員の活動について、次のとおり報告します。

1. 配置部署
豊川地振興センター

2. 配置年月
平成２６年４月１日から

3. 活動の概要
①活動の内容
Ⅰ．地域自治組織設立準備事業
・地区民への周知（会議及び講演会の開催、準備会のだより発行等）
・地区の現状把握（とよかわ地域づくりアンケート調査の報告、ワークショップの開催等）
・地域自治組織設立の準備（まちづくりプラン及び活動計画の作成）
・地域魅力化プロジェクト事業の実施及び事務支援

Ⅱ．地域魅力化事業
・GIS（地理情報システム）によるマップ作成事業
定住（空き家)、農地（耕作放棄地等)、防災（危険個所等)、遺跡（観光等）多様な部門でのマップ（資料）作成、情報管理。
・歴史的遺産・名勝等の利活用再生整備及び保存事業
豊川地区に数多く点在している歴史的遺産、名勝等の維持管理を図り観光資源の活用、交流人口の拡大を図る。
・みんな笑顔のとよかわづくり事業（古民館プロジェクト）
地域の方々が主催する教室の開催を支援。作品の展示等、地区の交流スペース（豊川小学校）の利活用により地区民の積極的な交流・集客を図る。

②活動の成果及び効果
Ⅰ．地域自治組織設立準備事業
「とよかわの将来を考える会準備会の開催」
・第１回：平成２８年６月７日（火）
☆委員、役員の選出及び規約の承認
☆市より「これからの地域づくり」について説明
☆地区民アンケート調査集計結果の内容を検討

・第２回：平成２８年８月８日（月）
☆地域のことを話し合う場づくりとして、連合自治会長、田原哲夫さん（上ノ原田倉）による「ボランティア・住民参画・学社融合からの人づくり、地域づくり」と題した講演会を開催。

☆「とよかわ地域づくりアンケート」の結果から地域の現状を踏まえたグループワーク（中高生参加）や「豊川小学校交流スペース」の活用についてワークショップの開催。

・第３回：平成２８年１０月６日（金）
☆まちづくりプラン及びまちづくり計画について説明
☆地域自治組織について質疑応答

・第４回：平成２８年１２月７日（水）
☆まちづくりプラン・活動計画・規約（案）の内容について説明。
☆予算書及び事業計画（案）について説明。
☆先進地視察について説明（空き家の利活用について江津市の取組みを見学）

・その他
☆とよかわの将来を考える会準備会やワークショップで出された意見など「準備会だより」（毎月発行予定）を発行し地区民に周知を図る。
☆とよかわの将来を考える会準備会の開催にあたり役員会を５回開催（１月末現在）
☆地域魅力化プロジェクト事業における今年度の活動報告及び来年度の活動計画の検討。

とよかわの将来を考える会準備会

ワークショップ（中高生参加）

Ⅱ．地域魅力化事業
・GIS（地理情報システム）によるマップ作成事業
平成２７年度「地域づくり団体等による空き家調査事業」で調査した空き家カルテや成果物を基に空き家情報をマップに入力。情報の整理及び情報の共有により地区内でも積極的に活用し定住推進を行う。

・歴史的遺産・名勝等の利活用再生整備及び保存事業
「久々茂遺跡」「古矢遺跡」「韮草山」等において現地調査及びルート調査を実施、倒木処理、低木除去、除草作業等、地区の方々の協力を得ながら環境整備、既存案内板等の維持管理を行う。
今年度は既存の保存事業に加え、久々茂地区の歴史遺産保存事業として、老人クラブ「わかば会」の協力により案内板を新たに２か所設置し継承化を

図る。

・みんな笑顔のとよかわづくり事業（古民館プロジェクト）

地域解決型公民館支援事業と連携。地域の誰もが気軽に立ち寄れる交流スペース（豊川小学校）を地域住民や保護者が自分たちの手で作れるように木工 DIY 教室等のワークショップの開催を企画、支援、実施した。

今年度はスツール、クラス札（小学校）、ベジタブルボックスを木工 DIY 教室にて製作、ピザ窯づくり教室とあわせて３回開催。

豊川地区空き家マップ

遺跡案内板設置作業

木工 DIY 教室

ピザ窯づくり教室

4. 残された課題と今後の提案

Ⅰ．地域自治組織設立準備事業

「とよかわの将来を考える会準備会」を柱として、地域課題の整理・解決、情報の共有・周知の為の取組み、新たな地域運営の仕組みづくり、新たな推進体制を整えたい。地域のために住民が心を一つにして、夢と希望の持てる活力ある「とよかわの未来」に向けて地域自治組織の設立を目指したい。

不慮の事態により、今年度に予定していた地区住民説明会及び先進地視察は来年度に持ち越しとなる。また、地域自治組織設立総会の時期においても「まちづくりプラン・活動計画」、役員の見直し等により検討中である。

Ⅱ．地域魅力化事業

・GIS（地理情報システム）によるマップの作成事業

今年度は豊川地区の空き家情報の入力によるマップの制作により各地区の空き家状況が把握できた。

次年度は、まちづくりプランの活動計画の事業と並行し更なる空き家情報の充実をめざした資料作成、マップ制作を進めていきたい。その他、可能であれば地区内の危険個所の把握を始め避難経路、避難場所等の情報をマップに入力し地区全体で管理、情報の共有ができるような防災マップの作成を考えている。

また、未だ利活用及び操作方法が曖昧なため地図ソフト等の研修は継続して行いたい。

・歴史的遺産・名勝等の利活用再整備及び保存事業

地区の観光資源、遺産・名勝、歴史・伝統を守るためにも不可欠と思われ、岩栃しだれ桜の冬季処置と併せ今後も行っていきたい。

今年度、久々茂地区の２ヶ所に新たな案内板を設置したことにより、地区内での地元学や新しいイベント、勉強会など積極的に地域資源を利活用していきたい。また、交流人口の拡大にも努めたい。

・みんな笑顔のとよか㋐づくり事業（古民館プロジェクト）

昨年度からの取組みをさらにパワーアップした。今年度は地域解決型公民館支援事業と連携し地区の方々の協力により豊川小学校の裏側にピザ窯を製作した。ピザ作りを絡めたモノづくりのワークショップを企画、開催することにより地域の幅広い世代の方々がこの事業で自分の趣味や特技をシェアすることでコミュニティの輪が広がっていくのではと期待している。また、交流スペースや公民館をより幅広い世代の方々に利用していただけるよう「地域づくりの人材を生みだす」拠点にしていきたい。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

今年度は上記の活動以外の活動として、下記の「地域づくり活動」への支援をさせていただいた。

・地区イベントのサポートとして、地域の現状把握もあり、各種イベントの参加。独自のパソコン教室「パソコンカフェ」（月２回）の開催。

・地域事業のサポートとして、子ども地域活動モデルづくり事業（つろうて子育て推進協議会）事務支援、地区関連事業等への支援。

・積極的な情報発信として、SNS（Facebook）によりイベントや歴史・文化等の発信。

・視察や各種研修への参加。

次年度は地域自治組織の設立をはじめとして、まちづくりプランのテーマである「住みよい豊川・住み続けたい豊川」そして未来へを目標とした「まちづくり計画」がスムーズに実施できるよう事務局としてサポートしたい。

豊川地区に配属されて３年が経った。地域の中で働いているという実感も湧いてきたが、地域自治組織の進行に伴い勉強不足を実感している。地域魅力化応援隊員という仕事は地区の方々の協力なしには勤まらないと今更ながら気付いた。

真砂地区

地域魅力化応援隊員　氏名　岸本 真樹

平成 28 年度における地域魅力化応援隊員の活動について、次のとおり報告します。

1. 配置部署　真砂地区振興センター
2. 配置年月　平成 27 年 8 月から（2 年目）
3. 活動の概要

①活動の内容

1) 地域自治組織支援事業

A) 交流（地区内外）事業

さくらまつり、日晩山登山＆ウォーキング、まるごとフェスタ等、これまで実行委員会形式で執り行ってきた各種交流事業を、地域自治組織を中心に実施できるよう関連団体等と協議しながら改変中です。

B) 福祉・防災活動事業

地域全体で支え合い、老後も元気で安心して暮らせるまちを目指し、認知症サポーター講座（全 3 回）や、ふれあいと健康づくりを目的としたソフトバレー大会、地区社協と共催で敬老会を開催しました。

また、普段の見守り等〝福祉〟に重きを置いた自主防災団体を H29 年度を目標に設立予定とし、それにともない、地域住民と連携しながら要援護者リストや防災マップを作成しました。

C) 環境整備事業

地域のシンボルである桜の管理作業を住民と協力しながら実施しました。

D) 人材育成事業＜地域づくりの担い手育成＞

次世代の地域の担い手づくりを目的に、地区内の新規・既存イベント等に積極的に関わりながら、大人（40～50 代）向けと子ども（中学生）向けの 2 段階方式で人材育成事業を展開しています。

E) 特産品開発事業

小さな経済活動の促進と地区外への PR を目的とし、収穫時期に米の品評会を開催し、食味部門上位者の米でお土産品を開発中です。

F) 通信の発行（概ね月一回）

地域自治組織の動きを全地区住民に周知するため、各種会議の様子やイベント情報等を通信にして定期的に発行しています。

2) 過疎地域等集落支援ネットワーク圏形成支援事業

A) 交流拠点整備事業

地区内外の交流や地域住民による飲食の提供、及び特産品販売等の小さな経済活動を目的とした拠点として圏内の遊休施設を改装し、H29 年春のグランドオープンに向けて準備中です。

B) 人材育成事業＜運営人材の育成＞

A)にて整備中の交流拠点での住民による主体的な運営を目指し、現地にて様々な人材育成講座やイベント・カフェ等の実証実験、活用座談会をプレオープン期間中に行っています。また先進地（津和野町）への視察研修も行いました。

3) 都市農村共生対流総合対策交付金事業《中四国農政局》[H27-29]

A) ふれあいバスツアー（月 6 回／2 コース）

圏内に商店や飲食店がないため、運転免許を持たない買物弱者（主に 70 代～高齢女性）対策として試行運転を展開し、デイサービスの空き時間を利活用して、市内大型スーパーまでの送迎を実施しています。

今年度からの新たな取組みとして、買い物帰りに真砂保育園に立ち寄り、園児と昼食を兼ねたふれあい交流も行っており、荷物の多い帰りは自宅までの送りもあることから人気のツアーとなっています。

B) 里山保育の効果の数値化＜園児の健全育成と小さな福祉活動＞

真砂保育園が行う『里山保育』は“地域全体が園庭”“住民全員が保育士”がモットーです。月に一度、圏内集落に順に訪れ、地域住民と共に食事をとりながら交流する取組みを行っており、園児の健全育成だけでなく、独居老人等高齢者の見守り活動にもなっています。

今年度は専門家（大阪府立大学 地域連携研究機構 三宅氏）による園児の体力・健康面の測定を行っています。

C) 土づくり研修会

出荷野菜の品質と生産力向上を目的に、生産者向けに専門家（一般社団法人 MOA 土居氏）を招いて定期的に土づくり研修会を実施しています。座学と実習を兼ねた実践的な内容が好評で、回を重ねるごとに参加者も増加しています。今年度は、出荷先の飲食店での試食会を実施することで生産意欲の向上も図っています。

D) 新種野菜の実証実験

新たな特産品づくりを目的とし、市内飲食店シェフのアドバイス等をもとに、未耕作地（田んぼ）でも育成可能なマコモダケや、飲食店で需要のあるハーブ等の新種野菜の実証実験を行っています。

E) 情報発信＜web サイト・SNS・ニューズレター＞

地区内各団体で共同運営している SNS に加え、今年度から、都心在住の外部アドバイザーや大学生（法政大学・島根県立大学）等、地区内外を問わず真砂に関わる様々なライターと提携し、日々の情報をさらに多角的に発信できるよう公式サイトをリニューアルしました。

また、地区内の様々な取組みを纏めたニューズレターを発行（年 4 回）し、地区内への周知と地区外の新たなファンや支援者等の獲得を目的とした情報発信を積極的に行っています。

●web　　http://masagoplus.jp（更新随時）
●facebook　　https://www.facebook.com/masagoplus/（更新毎日）

4) 地域の魅力化推進事業

保育所給食食材提供（集出荷：毎週月・木）

市内 4 保育所と提携し、無農薬で安心安全な野菜を給食食材として提供しています。登録農家は約 50 戸です。生産者会議（毎週水曜）と保育所会議（月 1 回）で生産状況の確認及び保育所の要望を聞き取って食材提供の内容を調整し公民館で集出荷しています。保育所までの配送は地域住民が行っています。また、余剰分は市内大型スーパーに出荷しています。

5) その他

A) kintone 活用の実証実験

地域自治組織をはじめとした各種事業の事務局作業における効率化と経費削減を目的とし、益田市等三者協働で今年度実証実験中のクラウドサービスを自治組織の運営に活用しています。

さらに、前述 4）保育所給食食材提供の取組みの集荷から精算までの事務作業におけるシステム化も図っています。

B) 学生等の地域活動支援事業《西部県民センター》

空き家の課題解決と継続的な関わりづくりを目的に島根県立大学の学生 5 名を受入れています。住民と交流しながら、アンケート調査を実施しました。

②活動の成果及び効果

1) 地域自治組織支援事業

設立初年度ということもあり、誰もがはじめてのことで試行錯誤の一年目でしたが、今までバラバラで動いていた各種団体や住民の多くがこの地域自治組織を通してひとつとなり、イベントや会議など様々な活動を重ねながら、少しずつではありますが自分ごととして地域のことを考え動き始めたことが、まずもって組織を設立して良かったと思うところです。

2) 過疎地域等集落支援ネットワーク圏形成支援事業

H26 年実施の全住民（中学生以上）を対象としたアンケート調査で要望の多かった交流拠点がついに完成しました。自治組織主導ではなく、活用する地区住民での主体的な運営を目的とした各種人材育成事業を行う中で少しずつ意識が高まり、意欲的な仲間も増えつつあります。会議の場だけでなく、

カフェ形式で気軽に話せる機会を定期的につくることで、今まで関わりのなかった方からも様々な意見が出ています。

3) 都市農村共生対流総合対策交付金事業《中四国農政局》[H27-29]

昨年度から継続して行っている D）新種野菜の実証実験において効果の高かった“マコモダケ”を、生産者と協力しながら新たな地域の特産物として取組むこととなりました。昨年度からの継続的な各種取組みにより総合的に真砂ブランドが浸透しつつあり、今年度中に園児 4 名を含む 2 家族（1 軒はマコモダケ生産農家）が移住、あるいは移住予定です。

4) 地域の魅力化推進事業　保育所給食食材提供

H23 年度から本事業の取組を始め、今年で 5 年目を迎えました。園児たちの健康づくりはもちろんのこと、生産者にとっては、収入面だけでなく、自らが作った野菜を喜んで食べてもらえることや調整会議等で仲間同士の顔を合わせることが、生きがいや生産意欲の向上につながっています。

5) その他

A) kintone 活用の実証実験

自治組織をはじめとした膨大な事務局作業が整理され、大幅に効率化できました。今後、さらに委員等の利用者を増やすことにより、情報共有によるメリットや印刷代等の経費削減効果が図れます。

また、4）保育所給食食材提供で実証実験中のシステム化が実現すれば、地区内法人への業務委託が可能となり継続性が期待できます。

6) 学生等の地域活動支援事業《西部県民センター》

圏内の空き家を改修し大学生が活動する際の拠点を整備することとなり、今後の継続的な関わりを創出するきっかけとなりました。

4. 残された課題と今後の提案

・農業の担い手不足　→若者が農業に従事できる環境づくり（法人化）
・人口減少　→移住定住者を呼び込むための地域体験イベントの開催
・空き家不足　→空き家（土地）情報の収集、および新築住宅の整備
・3)A)ふれあいバスツアーについては、試行運転ではなく正式な運行を強く望んでおり、行政当局の支援を切にお願いしているところです。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

４月の自治組織設立から１年が経過しました。初年度は、応援隊員として、さらに事務局長として力不足を実感するばかりでした。地域自治組織以外にも様々な事業を兼務していたこともあり総合的には実績を残せたという自負はありますが、当組織の事務局としては、設立してみないと分からなかったことが多かったとはいえ決して十分な支援ではなかったと反省しています。来年度は委員の皆さんの主体性を重んじながら、きめ細かいフォローを心がけたいと思っています。

西益田地区

地域魅力化応援隊員　氏名　栗山　三男

平成 28 年度における地域魅力化応援隊員の活動について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

西益田地区振興センター

2. 配置年月

平成２６年１２月から

3. 活動の概要

①活動の内容

Ａ）地域自治組織設立準備事業

Ｂ）地域魅力化応援事業

②活動の成果及び効果

Ａ）地域自治組織設立準備事業

今年度は西益田地域づくりの会を

・西益田まちづくりの会（仮称）協議会実行委員会…規約と人事の調整

・まちづくり委員会　・・・　まちづくりプラン（活動計画）の作成

と二部制にし、それぞれに気運の醸成に尽力してもらった。

・協議会実行委員会　４回

・まちづくり委員会　７回（部会含む）

・全体会議　２回

・防災講習「自主防災と人の連携」（10 月 28 日）

・先進地視察（山口市佐山地区）（H28.11.8）（H29.1.13）

Ｂ）地域魅力化応援事業

① いかだ流し大会

第３４回清流高津川　いかだ流し大会

平成 28 年 7 月 30 日　向横田橋下河川敷地

前夜祭　午後 2 時より　鮎のつかみ取り等開催

平成 28 年 7 月 31 日　いかだ流し大会　総計 19 チーム（163 名）参加

前夜祭と合わせスタッフ 200 名超、

参加者約 700 名以上の参加

② 夜神楽　in　梅月

平成28年10月30日（土）

昨年同様「あんな坂こんな坂」にて、ひのきのかがり火を神楽殿周辺に設置し、梅月神遊座による神楽上演を行い、地区内外から来た人に松明による幻想的な雰囲気による神話の世界を堪能してもらう事を目標に十分な準備をしたが、天候不良により中止を決断した。

しかし、計画段階より地元中学生の運営参加を計画していた事により、他の地区のイベントや公民館事業に積極参加してもらう素地が出来た。

③ クリスマスイルミネーション点灯式

平成 28 年 12 月 10 日（土）

第一部　“クックノエルパーティー”

独身男女の出会いの場を恋活の一助となるよう演出した。クッキング教室をプロの料理人を講師に招き、料理し後片付けまでして自分たちで作った料理でパーティーをし、第二部の点灯式に合流した。

参加者　男性＝3 名　　女性＝2 名

自主参加（応募者）が極端に少なく、ギリギリまで関係各所に動員のお願いをしたが結果として上記人数しか集まらなかった。

第二部　“クリスマスイルミネーション点灯式”

昨年に引き続き、横田右岸公園にシンボルパネルを設置し、手作りの設置物や周りの木々に、イルミネーションを実行委員をはじめ地元有志と共に施し、カウントダウンとともに点灯セレモニーを開催した。カウントダウンの前に地元横田中学の吹奏楽部に演奏してもらい、後に近隣のミュージシャンのパフォーマンスで盛り上がった。

4. 残された課題と今後の提案

・地域自治組織設立準備事業

今年度は、昨年度までの活動で浮き彫りになった地域の課題を基に部会を作り、それを各自治会より選出して頂いた“まちづくり委員”さんにまちづくりプラン（活動計画）を立てて頂く下地の整備が出来た。来年度は地域自治組織を立ち上げるためのまちづくりプラン（活動計画）を実際に構築していかなければならない。その為には各部会にスケジュールを合わせ、中身の濃い話し合いを重ねていってもらいたいと思っている。

・地域魅力化応援事業

天候に大きく左右される事業や参加者を募る事により参加費を事業予算に入れ込むような事業は、今後、廃止または大幅な変更を余儀なくされる。

また、ＳＮＳでの発信も単体では効果が薄く、もう少し工夫が必要と考える。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

担当者の未熟が故に、会議では主旨や思いが伝わりづらく、各委員の自主性や主体性がうまく引き出せていない。

また、各事業においても見通しが甘く、自身が描く形にはならなかった。

公民館職員にはとても良く協力してもらっていて助かっている。今後も相互に助け合いながら各事業・まちづくりに邁進したい。

他の応援隊員は皆様々な工夫をし、熱をもって取組んでいるように思えるので少しでも近づけるように努力をしていきたい。

二条地区

地域魅力化応援隊員　氏名　伊藤　浩治

平成 28 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署
   二条地区振興センター

2. 配置年月
   平成２７年４月１日

3. 活動の概要
   ①活動の内容

平成２８年４月１０日　二条里づくりの会総会
二条里づくりの会　総会
地域自治組織の認定を受けて２年目を迎えましたが、昨年度の反省を踏まえ、事業計画の再考や、より一層の成果実現に向けて、事業計画・予算等を地区住民の方に報告致しました。

二条里づくりの会　各部会活動
なりわい部会
【ふるさと便事業】 ふるさと便　左：お歳暮　右：お中元 ふるさと便　詰め込み・発送準備
昨年度は、お中元・お歳暮の販売数が約１５０セットであったものが、今年度は、約１８０セットと僅かですが増えており、二条地区の情報発信にもなる「ふるさと便」が根づいているのではと思います。

【里山整備事業】

搬出機材

山内自治振興区　視察

放置竹林は、里山の景観を損ね、有害鳥獣の温床になり、また、土砂災害の原因ともなるため、昨年度から今年度にかけて、益田市まちづくり活動特別補助金を活用し、伐採用機材・搬出用機材を購入しました。来年度は、竹チップによる田・畑の作物への効果を実証する為、広島県山内自治振興区に視察も行い、圃場での実証を行う為、竹の伐採や竹チップへの加工を行いました。

ひと部会

【田舎体験型住宅整備事業】

多伎地区の皆様

北仙道地区の皆様

出羽地区の皆様

昨年度、かまどの整備及び家屋の整備を行い多くの方に利用して頂きましたが、今年度も、視察の受入、広島大学オンサイト研修時の宿泊、地区住民の憩いの場等、昨年度以上の方に利用して頂きました。

【世代間交流事業】

薪割り交流会
約３０名参加

ＩＮＡＫＡライド
二条ステーション

広島大学オンサイト研修
平成２８年８月１７日～２２日

昨年参加した「しまね田舎ツーリズム」は、今年度はキャンペーンを行わないことから、ガイドブック等の大々的な情報発信が出来ない為、開催も危ぶまれていましたが、昨年参加された方から「今年はいつ開催するの？」という後押しもあり、フェイスブック・チラシのみの情報発信となりましたが、遠くは広島県などの県外からと予想以上の参加希望者のなか開催の運びとなりました。当日は、雨という生憎の天気でしたが、親子参加型のプログラム効果もあり、歓喜の声が１日中絶えないツーリズムとなりました。

くらし部会

【鳥獣対策事業】

Ｋｉｎｔｏｎｅを活用した
鳥獣マップ

「サル」勉強会

「クマ」勉強会

有害鳥獣別電柵設置実演

昨年度より有害鳥獣対策として、目撃・被害情報の収集を行ってきましたが、見える化や情報の共有を図るため、Ｋｉｎｔｏｎｅ上のアプリを活用し地区住民の方にも入力をして頂きました。また、今年度は、特に「サル」「クマ」の目撃・被害が多発したため、各有害鳥獣の生態や防除策などの勉強会を開催し、防除策の一つである電柵の設置実演も行いました。

【自主防災事業】

益田市消防局隊員の指導による普通救命講習

昨年度同様、益田市消防局隊員の指導による普通救命講習を開講しました。今年度は、ＡＥＤ・心肺蘇生法等の一般的な講習に加え、簡単な傷病者搬走法や止血法なども講習に加えて頂き、３時間の講習時間を余すことなく使い終了しました。

②活動の成果及び効果

地域自治組織の認定を受けて２年目を迎えましたが、ふるさと便の注文数の増加やツーリズムのリピーターの増加等から、徐々にではありますが二条地区の認知度が高くなったと感じています。また、認知度が高くなった事により県内外から多くの視察があり、お互いの活動状況を知る事で将来を見つめた活動計画を考える事が出来ていると思います。

4. 残された課題と今後の提案

真砂・匹見下・道川と地域自治組織の認定を受けた地区が増えてきていますが、依然、地域自治組織の認知度が低い状態であり、今以上に地区住民に周知するための手段を模索している状態です。今後は、門戸を開いた状態で待つのではなく、積極的に呼びかけを行い、地域自治組織だけではなく地区住民全てが地域づくりに参画できるよう、規約の改定や組織の改編を提案していきます。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

昨年同様、事務処理が中心となってしまい、本来、応援隊員に求められる企画などのマネジメントが出来てなかったと思います。昨年度は、「地域自治組織とは」から始まり事業計画に沿って事務処理を行う事で終わってしまい、今年度は、昨年度の状況を踏まえて業務を行う必要があったにも拘らず、事務に追われる年となりました。来年度は、この２年間が無駄にならないように、４．に揚げた課題を解決するため、業務を行っていきたいと思います。

美濃地区

地域魅力化応援隊員　氏名　真庭　太樹

平成 28 年度における地域魅力化応援隊員の活動について、次のとおり報告します。

1. 配置部署　美濃地区振興センター
2. 配置年月　平成 26 年 4 月から（3 年目）
3. 活動の概要

①活動の内容

地域自治組織設立準備事業

○　組織体制づくり

昨年度から既存の委員 13 名〔振興センター運営委員 10 名及び魅力化推進委員 3 名〕に各自治会から選出された〔青年委員 18 名〕及び〔賛同有志 2 名〕を加え、役員改選により 32 名（※重複 1 名）の委員の内、会長を除く 31 名が〔結い学び部会 13 名〕〔てごすけ部会 9 名〕〔ええ出合い部会 9 名〕に分かれて各担当課題を検討しました。

自治組織全体会の様子

各部会の様子

地域自治組織設立に向け、一昨年、昨年に実施したヒアリング調査やアンケート調査を基に以下のとおり取組みました。

・〔月 1 回を目安に部会、計 22 回〕を開き、項目ごとに事業計画の原案を纏めました。
・〔役員会、計 4 回〕を開き、中間報告や今後の検討課題を各部会長と地域自治組織設立準備会：会長や役員で調整しました。
・〔全体会、4 回〕を開き、各部会で検討された事業計画を基に〔まちづくりプラン〕の作成、〔規約〕の制定を行っています。様々な課題を青年委員が共有する事によって、漠然としたまちづくりの必要性に気付き、気運は高まりつつあります。平成 29 年 5 月の地域自治組織設立に向けて地区住民と共に目指しています。

○　現地勉強会及び視察対応について

会長と様々な事を協議し、市が実施する「ラウンドテーブル」「地域づくり研修」に参加するとともに、先進地視察に取組むなど委員の皆さんと一緒にまちづくりに向けて勉強しました。特に先進地現地「口羽をてごぉする会」の調査では過半数の青年委員と共に参加し、地域自治組織が立ち上がった後の地域との関わり方や組織運営方法を学ぶとともに、青年委員が若いこともあって、**自分達で行える組織での関わり方や運営方法**を模索しているようでした。

また、当地区で交通実証実験を取組むに当たり、協働する高津梅寿会が視察に来られたため、竹内部会長と対応し、地域の現状を報告するとともに、

「美濃ふれあいサロン」を案内しました。

梅寿会、視察対応の様子

先進地現地調査の様子

○　交流（地区内外）事業　及び＜地域づくりの担い手育成＞

美濃公民館三大行事（美濃地区大運動会、美濃盆行事、美濃ふれあい祭）に地域自治組織設立準備会も協力しながら取組み、設立後も関わりながら取組む予定です。昨年度、設立した「美濃ふれあいサロン」の取組みは今年度、本格的に若者参画や地域継承を考えて「地域自治組織設立準備会：青年部」に参加要請し、旧美濃小学校の廃校による気薄になっていた多世代交流の一翼を担っています。

テーマは〔自分達が楽しまないと、仲間は増えない〕です。

初めて行った流しコイノボリ

復活した流しそうめん

○　環境整備事業＜耕作放棄地の有効利用及び景勝地化を目指して＞

地域の花として定着を目指す「ヒマワリ」は今年度、３５，０００本４０ａ以上の作付けをしました。また、地区住民に呼掛け、ヒマワリの種を配布する事により、個人の小さな遊休地〔庭や畦〕にもヒマワリが咲くなど、地区の景観やヒマワリに対する意識が向上しました。

また、今年度は遊休地に〔牛を使った遊休農地対策〕を導入し、耕作放棄地の有効活用を多方面から進めています。

地区の花はスタンプラリーに

耕作放棄地に導入した牛

○　特産品開発事業

今年度もヒマワリ油の製作を公益信託しまね女性ファンドの助成金を活用して事業に取組みました。ヒマワリの種 90 キロを収穫し昨年度より約 4 倍となる、25ℓの搾油に成功しましました。連動した交流事業としても取組み、〔子どもや青年＝植付　収穫＝ジャスミンの会　加工＝前期高齢者〕が地域一体になって、ヒマワリ油の加工に携わる事ができました。〔ヒマワリ収穫祭〕では関わった皆さんが「ヒマワリ油を使った山菜てんぷら」や「ヒマワリ写真展示」を楽しむ交流会となり、初見のイベントとして異例の 1/3 の住民が参加しました。

昨年度の三倍増しのヒマワリ油

地区民が一体となって収穫・加工

○　情報発信＜web サイト・SNS・地区外広報誌配布＞

今年度も Facebook を中心に情報展開をしました。地区住民に幅広く呼びかけ、準備会会長を総括に据え、指南役に有田上自治会長、賛同頂いた各委員に〔農業・子ども・地区行事・Ｉターン・交流〕と担当を区分けし地域の情報を幅広く網羅して発信を心がけました。

コミュニケーションアプリ LINE（ライン）を利用し「地域自治組織設立準備会青年部」〔加入率 80%〕で主に共有し、公民館情報をリアルタイムで届ける事に成功するとともに、地域行事等に参画しやすい体制を整えました。

地区の広報誌である「みのハツラツ通信」を地区外に発行する取組は 26 件まで増え、相手から手紙が届くなど、好評を得て増加傾向にあります。

LINE で公民館情報をﾘｱﾙﾀｲﾑで共有

Facebook の中で会議できる仕組

○　人材育成事業＜地域継承人材の育成＞

今年度の目標は旧美濃小学校が廃校となった背景を踏まえて、美濃地区の様々な行事、イベント、歴史を子ども達に伝えたい理念の下、子ども向けの

歴史資料を作成し発表しました。また、自分達がどのように地域に関わっているかを知ってもらうため、子ども達が映っているイベント交流会の様子をパワーポイントで纏め放映しました。子どもが参画すれば青年世代も参画する図式構築を目指しました。

子共達に紙芝居のようなﾊﾟﾜﾎﾟ放映

先人達にしめ縄を教わる取組

②活動の成果及び効果

一昨年から継続している〔小さな拠点事業〕の調査で気運が高まり、その延長で、数少ない〔青年世代〕が年配者の意図に共感し、本格的に地域自治組織設立準備会を通して地域運営に参画しつつある効果は大きいと感じています。先代達も若い世代に地域の誇りを繋げ未来を築く取組みであると理解が徐々に広まってきました。

③残された課題と今後の提案

住民一人ひとりが自分達の足元を見つめなおす事が重要になってくると思われます。確かに残された課題は広大で、公民館を中心に動く事は良いも悪いも「依存」と「協力」は表意一体であり、地域自治組織と言う名ばかりが先行すると美濃は迷走する可能性があります。それよりも現在のように相互扶助を強固にし、家族とも近所とも話し合いの習慣を大切にした、風土に元々有る取組を進める事が集落の生き残る術だと感じます。また、現在話し合いの場を進めているように、協議する仕組みや方法を替える取組が必要になってくると思われます。

④地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

地域魅力化応援隊員として配属されて以降、三年目が終わろうとしています。私の住む高城地区と似たような田舎ですが事務を司る人材が不在だと痛感しました。地域の皆さんは朗らかで、他所者の私が程なく馴染んだのは祖母の故郷と言うだけではないと感じています。若輩者の私の考えに賛同してくれる温かみのある集落で、地域を担う気がある若者が二名出てくれば、組織が大きく動く体制にあると思います。また、そのような人材育成に地域の方々と協力し推進していきます。

小野地区

地域魅力化応援隊員　氏名　山本　勉

平成 28 年度における地域魅力化応援隊員の活動について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

小野地区振興センター

2. 配置年月

平成２６年７月から

3. 活動の概要

(1) 活動の内容

① 地域自治組織の設立準備

ア 準備委員会構成員の増

小野地区における地域自治組織の設立については、「小野地区地域づくり協議会準備委員会（以下、「準備委員会」）」を平成２６年５月に立ち上げ取り組んできた。構成員は当初、１０人であったが、その後、徐々に人数を増やし、平成２８年度においては４４名となり、会の構成についても、若者や女性の加入を図ってきた。

イ 先進地視察・研修会への参加

先進地視察については、まず、日程は、仕事をしている構成員も参加しやすいように土曜日に決定した。休日にもかかわらず、受け入れ先のご好意により実現することができた。視察先については、前年度開催した講演会の講師にご協力いただき、広島県庄原市を選定した。講師を務めていただいた方のご努力により、２人の自治振興区の事務局長と前事務局長（前年度講演の講師）による３人から、一度に取り組み状況を拝聴することができた。

３地区ともに、地域づくりに対する積極さが感じ取られ、成果も上がっているようであった。

ウ 講演会の実施

講演会の会場については、地区振興センターによる「中央開催」だと、参加者が固定されることが懸念されることから、基本的には自治会ごとへの「出前方式」とすることとした。

今年度は、江津市黒松地区が積極的に地域づくりに取り組んでいるという情報を得たことから、黒松地区に講演を依頼し、同地区と環境が似ている飯浦地区を会場とした。

講演の内容については、海をテーマに新しく始めた祭りや、産業の取組み、また、毎年防災訓練を行っていることから、前年の集中豪雨の際に隣近所で助け合うことができたとの事例発表があった。飯浦地区の参加者からも、「同じような地区の取り組みが聞かれて良かった」という声が聞かれた。

オ　設立に向けて

当地区における地域自治組織の設立については、平成２８年度当初から、平成２９年３月末を目標に取り組んできた。

まず、地域づくり計画については、平成２７年度に実施したアンケート調査を基に、３部会に分かれ協議した。まず、部長・副部長へまとめ方を事務局から示し、作成方法の目あわせをした。部会ごとの協議の仕方や回数に差はあったものの、方向性を申し合わせていることから、まとめるのは簡単であった。

計画づくりのまとめ方としては、地域づくりの理念を最初に持ってきて、続いて、各部が取り組む、「将来像」、「活動項目」そして「具体的な取組み内容」としてまとめた。

地区の方への周知としては、夏に、地域自治組織設立の必要性を自治会の組（最小組織）単位に、常会等を利用しながら出向いて説明した。常会等を利用するため、日程が重なったこともあり、説明する者は自治会長さんを含め複数で行った。

地区への周知の第２弾として、地域づくり計画の案ができた段階で、再度自治会の組（最小組織）単位に出向き説明した。２回目の地区説明なので、多少理解はされたようであるが、依然、周知の難しさを痛感した状況である。

設立総会については、年度当初の目標どおり、年度末の開催とした。

② 地域魅力化事業

ア ボランティアガイド育成事業

ガイドの育成については、地域資源を積極的に紹介することにより、地域住民にふるさとへの愛着と誇りを持ってもらうこと、また、地区の素晴らしさを発信することにより交流人口を図ることとして、平成２４年度から実施してきた。

取組み当初は、“先輩ガイドのお手本”を聞くだけであったが、だんだん実践を交えることで、みなさん説明に慣れてきた。

昨年度、地区振興センターにおいて、地区の方に集まっていただき「画像による小野探訪ガイド」を実施したことに続き、今年度は、小野中学校に出向き、中学生を相手に画像によるガイドを実施した。中学生は、「地区のことではあるが、初めて聞いた」等という声も有り、興味深そうに聞いていた。

そして、今年度も「地域づくりにつなげよう！小野探訪ウォーキング」を行い、その事業にあわせ、３箇所においてガイドの実践を行うことができた。

イ 「地域づくりにつなげよう！小野探訪ウォーキング in 滑」事業

準備委員会の構成員を含めた地区の方に、“まちあるき”としてのウォーキングを開催し、現地を歩いてもらい地区のことを知ってもらおう、ということで、昨年度に引き続き実施した。

まず、地区の選定については、以前から市道脇にスイセンやチューリップなどを植えつけている滑地区とした。滑地区においては、まだ、スイセンを追加して植えつけたいとの地元からの要望があり、当補助金を利用し千個の球根を今年度植えつけた。植え付けには、地元の方に加え、地区外からの参加も呼びかけ、多数で植付けを行うことができた。

滑地区へは、地元の方でもなかなか行く機会がないことから、地区を歩くことを呼びかけたところ、小野地区以外の方も参加され、“まち歩き”の目的に沿った結果となった。

ウ 「小野ふるさと誌」編集事業

小野地区には、地区の歴史書として、大正末期に編纂された「小野村誌」がある。この「小野村誌」を基に昭和期以降の記録を追加し、新しい「小野ふるさと誌」を編集・発刊することとし、平成２６年度に編集委員会を設置した。

今年度を原稿提出の年度とし、来年度以降、編集作業及び発刊に向けて取り掛かる。

(2)　活動の成果及び効果

①　地域自治組織の設立準備

年度当初の目標どおり、年度末の設立総会開催にたどり着けることができた。

準備委員会の中で、部会に分かれ、地区の課題解決やその方法、また、今後の地区の魅力の発信等についても話し合うことができた。今後は、この計画に沿って取り組む事となる。

②　地域魅力化事業

「地域づくりにつなげよう！小野探訪ウォーキング」事業については、今年度が２年目となり、取組み状況については、準備委員会の構成員の方もなれてきたこともあり、昨年度よりスムーズに進んだ。実際歩いてみると、地区のことでも、知らない場所や歴史などが多くあることにみなさん気が付かれる。もっと広めて、地区の現状を多くの方が知るところまでつなげたい。

ボランティアガイドの育成についても、画像を利用した説明会やウォーキング大会と併せて実施する実践のガイドにより、経験を積んでいくことで慣れてきているのが顕著に見受けられた気がする。

4.　残された課題と今後の提案

地域自治組織については、計画通り設立し、一定の結果が出た取り組みとなった。しかし、問題は組織を立ち上げた後が重要である。小野地区では、以前も同様の組織を立ち上げ、継続しなかった例がある。その二の舞にならないように、ぜひ継続させなければならない。そのためにも、しっかり根を張った組織づくりをしていかなければならないと思っている。

5.　地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

地域魅力化応援隊員となって、お約束の３年が経過した。地域自治組織については、市が当初示した目標年度に設立までこぎつけ、一応安堵している。

ここまでは、組織の設立について初めて取り組むことであること、目標がはっきりしていること等から、事務局主導で実施してきた。時には、一方的な提案で進めたこともあるが、準備委員会のみなさんへは組織の必要性が徐々に浸透してきた気がする。

３年間取り組む中で、幅広い世代の方たちと接することができ、年代によって考え方、また、取り組む姿勢が異なることに気づかされた。そんな中、若い世代の方たちとも話ができ、地区の将来を前向きに考えている人がいることに気づいた。若い世代の人達ともっと話をすることが、小野地区の地域づくりの理念である“ひとづくり”につながると感じた。

これからも、幅広く多世代交流を進めながら、各々が持っている考えを引き出し、地域づくりに繋げられるよう取り組んでいきたい。

地域魅力化応援隊員　氏名　吉賀　和之

平成２８年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署
   中西地区振興センター

2. 配置年月
   平成２７年５月

3. 活動の概要
   ① 活動の内容

地域自治組織設立準備事業

- 地域自治組織設立準備委員会
  計３回の会議を開催し、自治組織設立に向けての意識向上やアンケート実施について協議しました。

- まちづくりアンケート
  地域自治組織設立に向けた計画策定の参考とするため、計３回のアンケート検討委員会にて協議・作成した、まちづくりアンケートを実施しました。

地域魅力化事業

- なんでもお助け隊事業
  中西ヘルスポイント制度の一環として、平成２７年７月から本格的に活動を開始しました。主な作業は草刈ですが、その他に家具運搬や垣根剪定など、様々な活動を行いました。

- 環境保全対策事業
  有害鳥獣駆除対策として、動物駆除用花火使用講習会を開催し、地区住民の方に受講していただきました。
  昨年度から増加していたイノシシ対策として、箱罠（檻）を準備し、貸し出しを開始しました。
  不法投棄見廻り隊では、現在も絶えない不法投棄への啓発のため重点地域のパトロールを行い、監視体制の強化を図りました。
  「花いっぱい運動」では、美しい環境を守って、心温まる人間関係をつくるために各自治会へ花木（かぼく）を配布し、各自治会が管理する花壇や私道沿線に植え付け作業を行っていただきました。

- 中垣内遊歩道整備事業
  中西地区の観光資源である大道山と一畑薬師を結ぶ参道の安全を確保す

るため、参道への滑り止め会談の設置や案内看板の取り換えを、中河内自治会の方を始め、地区住民の方とともに行いました。

② 活動の成果及び効果

地域自治組織設立準備事業

- 地域自治組織設立準備委員会

　全体的に出席率はよく、委員の関心の高さを感じられます。人口拡大課による地域自治組織についての説明を受け、委員の地域自治組織に対する意識向上を図ることができました。またアンケートの実施、小学生によるまちづくり研究の発表の傍聴などを通して、少しずつですが地域自治組織設立に向けて進んでいると思われます。

- まちづくりアンケート

　実施するにあたり、準備委員会とは別にアンケート検討委員会を立ち上げ、３回にわたりアンケート内容の策定・検証を行っていただきました。委員の方の平均年齢は準備委員会より若く、今後の地域自治組織の設立に向けて、大きな力となっていただけると思われます。アンケートの実施に際して、中学生以上の個人を対象として実施（中学生は中西中学校で実施）しました。実施に際して各自治会の町内会レベルで協力をいただき、まさに地区全体を巻き込んだアンケートとなりました。回収率は、高校生以上は６３．２％、中学生は９４．９％でした。

地域魅力化事業

- なんでもお助け隊事業

　活動を開始して３０件の活動を行い、地区の高齢者の方にとって生活支援の一つとなりました。将来は国が推進する地域包括支援の一環として、中西地区の将来を支えていく活動になっていくと考えています。中西ヘルスポイントとも連動していることにより、ポイント制度との相乗効果も期待できます。またこの活動を通して、高齢者がどのようなことに困っているか把握もでき、今後の高齢者支援に役立つ情報収集も担っています。

- 環境保全対策事業

　動物駆除用花火を使用できる方が増え、地区内で問題となっている有害鳥獣の対策に迅速に対応できるようになりました。

　イノシシ対策用の箱罠（檻）については、これまで市に依頼していた箱罠貸出を、地区レベルで対応することにより、貸出依頼に迅速に対応できるようになりました。またイノシシの被害状況も把握できるようになり、今後の対応に活用できます。また JA 中西支店様より地域貢

献の一環として、箱罠３基の提供や、有害鳥獣対策の講習会を共催しました。

不法投棄見廻り隊では、不法投棄の多い個所を黄色のパーカーを着て見廻りすることにより、ゴミを拾うだけでなく、行き交う人の環境美化への意識向上や啓発になっています。また参加される方も意欲が高く、地区内の環境美化の意識の高さがうかがえます。今年度は隊員のお孫さんも活動に参加されるなど、若者の意識向上も感じることができました。

「花いっぱい運動」では、自治会ごとに花木を植栽していただき、美しいまちづくりにつながりました。今年度は、羽原自治会の皆さんのこれまでの環境美化の活動が評価され、「第５回益田市景観賞」の準グランプリに選ばれました。

- 中垣内遊歩道整備事業

大道山山頂と一畑薬師間の参道を整備することにより、これまで山頂から一畑薬師へ行くことを敬遠していた方も一畑薬師へ足を運んでいただけるようになり、知名度の向上が期待できます。

4. 残された課題と今後の提案

① なんでもお助け隊事業

昨年の依頼件数は年間１３件、今年度の依頼件数は１７件と、件数の増加はあったものの、昨年同様依頼件数は予想より少ない結果となりました。また依頼される方も、昨年と同じ方が主で、地区の皆様にさらに周知する必要があります。チラシの配布だけでなく、「センターだより」にお助け隊の活動を掲載するなど、広報活動をさらに充実させていきます。

② 環境保全事業

地区内ではイノシシ被害だけでなく、猿の被害も相次いでいます。今のところ有害鳥獣用の花火で対応していますが、有効な対応ができていない現状です。来年度以降、有効な対策方法を考えていく必要があります。

③ 中垣内遊歩道整備事業

全ての滑りやすい個所に階段を設置できたわけではなく、また参道が狭い個所もあり、危険個所が無くなったわけではありません。来年度も引き続き整備を行っていく必要があります。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

今年度は、まちづくりアンケートを実施することができ、自治組織設立に向けて、ようやく１歩前進できたと思っています。しかし設立までは、地区住民へのさらなる説明や計画策定など、課題は山積しています。

地域自治組織はあくまで地区住民主体で形作っていくものであり、事務局での考えだけで進められるものではありません。そのことを踏まえ、地区住民の方が、中西地区の将来像を見据えることができる場を作っていければと思っています。

中西には「中西ヘルスポイント制度」、そして「中西いき活き市」「中西なんでもお助け隊」など、地区住民が暮らしやすくなる事業を行っています。これらの事業を、もっと地区住民も巻き込んだ形にしていけば、中西らしい地域自治組織（コミュニティ）が生まれてくるのではないかと考えています。その手助けができるよう、活動していきたいと思います。

地域魅力化応援隊員　氏名　青戸 美奈子

平成 28 年度における地域魅力化応援隊員の活動について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

東仙道地区振興センター

2. 配置年月

平成 28 年 4 月から

3. 活動の概要

①活動の内容

【地域自治組織設立準備事業】

・地域自治組織設立準備委員会会議（6 回）

・視察研修

ボランティアで地区内輸送をされている、山口県長門市油谷地区「角山山坂見守り隊」の活動について。（長門市ラポールゆやにて委員 6 名参加）

・昨年度に実施したアンケート「東仙道への思い」を冊子にして全戸配布。

【地域魅力化事業】

・ふるさとカレンダープロジェクト

昨年度から引き続いての事業で、四季折々の東仙道の景色をカレンダーにして、地区の方や希望者に配布。（地区には無料で全戸配布。地区外への郵送は個々で送料負担）

カレンダーにする写真は 3 ヵ月ごとに募集し、住民の方々の投票にて決定。

・東仙道お助け隊

高齢や様々な理由により、草刈りが困難になった方を対象に、主に草刈りを代行。さらに、交通弱者対策として乗り合いタクシーの試験運行を想定し、75 歳以上の方を対象に交通に関するアンケートを実施。

②活動の成果及び効果

【地域自治組織設立準備事業】

・地域自治組織設立準備委員会会議

月に 1 回くらいのペースだったが欠席する委員さんも少なく、スムーズに会議が進んだ。逆に言えば活発に意見が出ない事が多く、まだまだ地域自治組織設立には不安が残る。

12 月の会議後には忘年会を開催し、和やかな雰囲気で委員同士の関係を深いものにすることができた。

・視察研修

ボランティアで運行するにあたっての経緯や課題を知る事ができた。準備委員会で話し合いを進める中で疑問が出た時に、この視察内容を振り返る事で参考になった。また、選択肢も広がった。

・昨年度に実施したアンケート「東仙道への思い」を冊子にして全戸配布

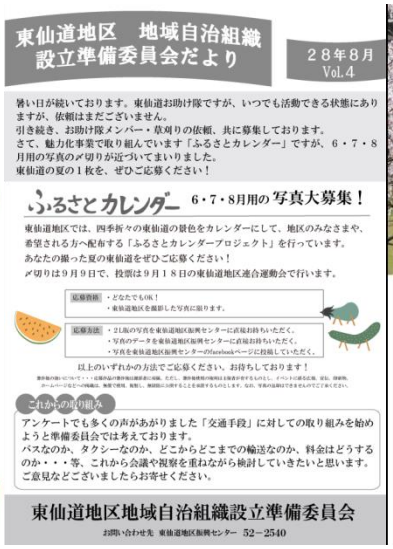
住民の方々の東仙道に対する思いを把握することができた。この集計結果をもとに自治組織ですべき事を、会議で話し合う事ができた。

【魅力化事業】

・ふるさとカレンダープロジェクト

それぞれ 3 月→8 枚、4 月→13 枚、5 月→19 枚、6 月→10 枚、7 月→9 月、8 月→9 枚、9 月→15 枚、10 月→11 枚、11 月→8 枚の応募があった。

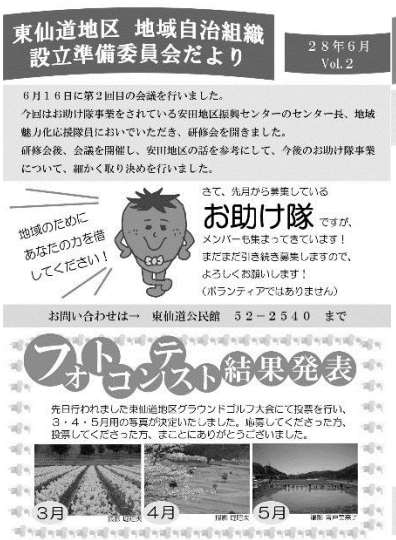
完成したカレンダーをまだ配布していないので、反応については解らないが、写真を投票してもらう際の展示パネルを眺めながら、「これ、きれいね」「素敵な写真ね」などの声をたくさんかけていただいた。子どもから高齢の方まで、いろいろな視点から見た東仙道の魅力を感じてもらえたのではないかと思う。また、地区外の東仙道出身者にも希望があれば配布し、ふるさとの良さを再確認し、東仙道地区を考えるきっかけになる事を期待したい。

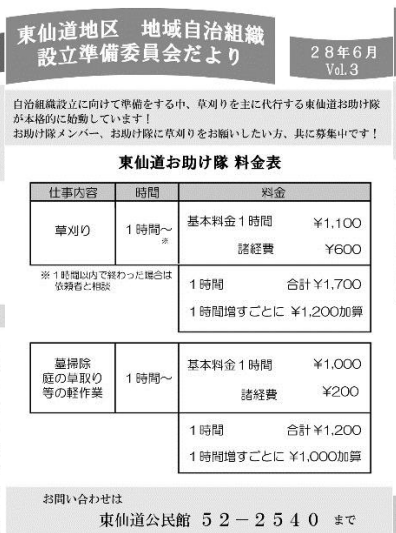


・東仙道お助け隊

９月に２件、それぞれ 60 代・90 代の方から自宅周辺草刈りの依頼があり、お助け隊員２名で作業にあたった。「またお願いしたい」と大変喜んでいただけた。また、１月には、仙道自治会から枯れた桜の木２本を伐採してほしいとの依頼があった。桜の木は通学路沿いにあり、枝が落ちるのは大変危険なので、２人の隊員が対応し、作業にあたった。

「近所の方に頼んでいたが気兼ねでね。」といった声が聞かれる中で、お助け隊は依頼のしやすさという点で期待できる。





4. 残された課題と今後の提案

【地域自治組織設立準備事業】

・地域自治組織設立準備委員会会議

委員だから仕方なしに会議に出ている、といった雰囲気も少しあり、活発に意見が出ない状況なので、設立までに「自分たちでやる」という意識改革が必要と考える。

【地域魅力化事業】

・ふるさとカレンダープロジェクト

写真は地区外にも募集をかけ、他の地区振興センターにポスター掲示をお願いするとともに、facebook を活用して周知を図ったがなかなか集まらず、毎回同じ顔ぶれの写真となってしまった。来年度もできれば続けていきたいが、写真の募集方法に課題だと感じている。そこで来年度は昔の写真を募集し、新たに写真は撮らなくても良い方法で募集してみてはどうかという案が出ている。

・東仙道お助け隊

月に１回のお便りにて周知を図ったが、なかなか依頼が来なかった。9 月にやっと草刈りの依頼があり、その活動報告をお便り上で行ったところ、それを見てまた依頼が入った。地道な周知と口コミが今後も引き続き必要かと思う。また、依頼が入ってから、登録隊員となかなか予定が合わず、結局同じ隊員が請け負う形になってしまった。作業は輪番で誰もが作業に当たる仕組みや都合が悪ければ隊員同士で調整する仕組み作りが今後の課題と考える。途中から取り組みを検討していたタクシーを利用しての交通対策については、アンケートの結果、難しいとの判断に至ったが、高齢の住民の方々が困っている事は事実なので、自治組織で車両を所有しての無償運行を目指して、今後も継続して話し合いを進めたい。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

私にとっても地区にとっても今年度からの応援隊員という事で、地域魅力化事業の進め方や補助金申請で至らない部分があったと思う。

公民館事業と地域づくりは切っても切れないものであって、結局どの事業にも参加する事になり、今の時点でも線引きが難しい中、この先公民館と地域自治組織でどのような形で運営していくのか不安がある。来年度に地域自治組織の設立を予定しているが、もっと地区に周知が必要であり、準備委員の気持ちも盛り上げていかなければ結局他人事で、説明会も無意味なものになってしまうと思うので、来年度は土台作りをしっかりした上で説明会を行い、設立という流れに持って行きたい。

解らない事だらけのスタートだったが、センター長やセンター職員、他地区の応援隊員、支所の方々などたくさんの人に助けられ、地区の方々にもやさしく接していただき、本当に周りの人に支えられた１年だった。

都茂地区

地域魅力化応援隊員　氏名　大谷　昭次

平成 28 年度における地域魅力化応援隊員の活動について、次のとおり報告します。

1. 配置部署
   都茂地区振興センター

2. 配置年月
   平成 28 年 4 月から

3. 活動の概要
   ① 活動の内容
   (1)都茂地域自治組織設立支援
   平成 28 年 2 月に立ち上がった都茂地域自治組織設立準備会の会議運営及び討議資料の提供

○準備会開催状況 (平成 29 年 2 月 1 日現在)
全体会　6 回
役員会　5 回
部会　　5 回 (暮らし部会-12 人・いきいき部会-12 人・人(仮称)部会-8 人)

月　日	会　議	内　容
6 月 9 日	役員会	準備会開催について
6 月 29 日	第 1 回準備会	① 地域自治組織今後の進め方 ② まちづくりプランの策定について
7 月　7 日	第 2 回準備会	まちづくりプランの検討
7 月 19 日	第 3 回準備会	まちづくりプランの検討
8 月 5 日	役員会	準備会の運営について
8 月 22 日	役員会	〃
9 月 2 日	役員会	〃
9 月 30 日	第 4 回準備会	まちづくりプランの検討
10 月 14 日	第 5 回準備会	まちづくりプラン活動計画の検討
11 月 25 日	役員会	準備会の運営(部会立ち上げ)について
12 月 12 日	第 6 回準備会	「暮らし」・「いきいき」・「人」3 部会立ち

	第 1 回部会	上げ。以降部会毎に話し合い
12 月 21 日	第 2 回いきいき部会	活動計画の検討
12 月 26 日	第 2 回暮らし・人部会	〃
1 月 13 日	第 3 回いきいき・人部会	〃
1 月 17 日	第 3 回暮らし部会	〃
1 月 30 日	第 4 回いきいき部会	〃
2 月 1 日	第 4 回暮らし部会	〃
2 月 6 日	第 5 回いきいき部会	活動計画の策定
2 月 9 日	第 4 回人部会	活動計画の検討
2 月 23 日	第 5 回人部会	〃

(2) 都茂地域自治組織設立準備会だよりの発行 (平成 28 年 8 月より)

平成 28 年 2 月都茂地域自治組織設立準備会が立ち上がり、地域自治組織の設立に向け、地域の課題、その課題解決のために地域自治組織で取り組んでいく活動等について話し合っているが、地域自治組織設立準備会のことを知らない住民も多いため、情報誌を発行して準備会の動きを住民に周知しながら地域自治組織への関心を高める。

・都茂地域自治組織設立準備会だより発行状況

号	発効日	内　　容
Vol.1	8 月 24 日	地域自治組織設立準備会紹介
Vol.2	10 月 24 日	準備会意見紹介
Vol.3	12 月 22 日	部会立ち上げ
Vol.4	1 月 24 日	部会の話し合い状況

(3) 都茂公民館だよりに美都の方言紹介コーナーを開設

都茂公民館だより平成 28 年度 5 月号より、美都の方言紹介コーナーを開設。

地域にはその土地独自の言葉があり、独自の文化・風習を育んできた。明治時代以降日本政府は中央集権を進めるため学校教育などの中で共通語を押し進めた。現在ではテレビ、ラジオの影響などにより、標準語がほぼ全国に浸透し、方言は忘れ去られようとしている。そうした中、各地では積極的に方言を守る動きが起こっており、保存会も作られている。

地方創生の取り組みが進められ

これ分かりますか？ 美都の方言

「うむす」

地域にはその土地独自の言葉があり、独自の文化、風習を育んできました。明治時代以降日本政府は中央集権を進めるため学校教育などの中で共通語を押し進めました。現在ではテレビ、ラジオの影響などにより、標準語がほぼ全国に浸透し、方言は忘れ去られようとしています。各地では積極的に方言を守る動きが起こっており、方言の保存会も作られています。

都茂公民館だよりでは、これから美都の方言を紹介していきます。

「美都の方言」初回分
(都茂民館だより平成 28 年 5 月号)

ている中、美都地域の方言を紹介し、自分たちの住んでいる地域の良さを再認識するとともに、地域を守っていく気持ちを育む。

② 活動の成果及び効果

地域自治組織設立準備会の運営については当初事務局主導のように感じられたが、会議を重ねるうちに、特に部会を立ち上げ具体な論議に入って以降は、準備会委員の地域をなんとかしようと、自治組織設立の機運がより高まってきた。

4. 残された課題と今後の提案

① 準備会、部会への出席者が固定している状況がある。会議の都度、会議報告、次回会議案内を送付し参加を促しているが、引き続き、全員参加を促していく必要がある。

② まちづくりプラン、活動計画がまとまり次第、地域自治組織について住民説明を行い、活動の企画・運営に参加する運営委員を募る予定。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

今年度は地域自治組織設立準備の最終年として位置付けており、準備会の効果的な運営に取り組んできた。

会議の運営について、事務局の目指す方向に導くのではなく、委員自らが考え、方針を決めていくよう心掛けた。

上記 3-②で記しているように、準備会委員の意識も変わってきており、委員の自主性を重視し、住民の手による自治組織の設立を目指す。

二川地区

地域魅力化応援隊員　氏名　小原　静伍

平成 28 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

二川地区振興センター

2. 配置年月

平成２６年４月から

3. 活動の概要

①活動の内容

・二川地区地域自治組織設立準備委員会（以下：準備委員会）の事務局
準備委員会及び同役員会の会議設定・調整・資料作成
地域課題の調査・研究等の支援

・地域魅力化事業の支援

②活動の成果及び効果

・地域自治組織設立準備事業
役員会　10 回（2 月末までの予定）
全体会　6 回（2 月末までの予定）
視察　　1 回
研修　　1 回
広報　　3 回
島根県中山間地域研究センターとの共同研究調査
島根県立大学生フィールドワーク実施

①	4 月 5 日	第 20 回役員会
	会議内容	28 年度事業の協議
②	4 月 19 日	第 21 回役員会
	会議内容	住民アンケート案の作成
③	4 月 27 日	第 22 回役員会
	会議内容	共同研究調査実施の協議
④	5 月 10 日	第 17 回全体会
	会議内容	住民アンケートの調査方法　28 年度魅力化事業の確認
⑤	5 月 24 日	第 23 回役員会
	会議内容	魅力化事業の協議　共同研究調査の協議
⑥	6 月 14 日	第 24 回役員会
	会議内容	アンケート結果の確認
⑦	6 月 27 日	第 18 回全体会
	会議内容	アンケートの集計結果
⑧	7 月 6 日	第 25 回役員会
	会議内容	まちづくり計画書案の作成　共同研究調査の協議
⑨	7 月 21 日	第 19 回全体会
	会議内容	まちづくり計画書作成　共同研究調査聞き取り調査　視察の日程調整

⑩	8 月 23 日	第 26 回役員会
	会議内容	まちづくり計画書の作成　規約の作成
⑪	9 月 13 日	第 20 回全体会
	会議内容	まちづくり計画書の作成　規約の作成
⑫	10 月 11 日	第 27 回役員会
	会議内容	視察研修の質問表作成
⑬	11 月 10 日	第 21 回全体会
	会議内容	共同研究調査座談会
⑭	1 月 16 日	第 28 回役員会　研修会
	会議内容	研修「ときめきの里　真砂」　自治組織の名称・役員・事業の協議
⑮	2 月 14 日	第 29 回役員会
	会議内容	名称・事業の協議
⑯	2 月 21 日	第 22 回全体会
	会議内容	名称・事業案の決定
⑰	3 月	第 31 回役員会（予定）
	会議内容	最終調整

・地域魅力化事業

地域に伝わってきた生活の知恵が年々減少し、地域資源の掘り起こしと伝承が急務である。地域でできることを発信し、地区を訪れた人とともに楽しめる場を創出する。地区住民の住んでよかったという思いが、訪れた人が「住んでみたい」につながるような二川を目指す。

・地域の交流拠点に向けた取組

◇どこでも二川カフェ

① 臨時営業設備における郷土食の提供

② 古民家カフェでの抹茶の提供

◇イルミネーションによる飾りつけ

◇小学校跡施設周辺の美化

・生活の知恵・食文化を伝える事業

◇日用品作りの伝承（ほうき・ハエたたき）

◇食文化の伝承

4. 残された課題と今後の提案

今年度はもの作りが体験交流のメニューになる手ごたえを感じることができた。

また、島根県中山間地域研究センターとの座談会で二川のまちづくりに対する意見やアイデアを出し合った。来年度設立予定の地域自治組織では、事業を考える部会を設けることになっているので、住民主体で運営されることを期待する。

併せて、〔手仕事の伝承→体験交流の実施→交流拠点の充実→小学校跡施設の利用〕を視野に入れながら、地域の人も楽しめるような体験メニューを増やしていきたい。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

平成２９年４月の地域自治組織設立に向け、認定要件を満たす準備がほぼ整った。

匹見上地区

地域魅力化応援隊員　氏名　大畑　馨

平成 28 年度における地域魅力化応援隊員の活動について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

匹見上地区振興センター

2. 配置年月

平成２６年５月から

3. 活動の概要

①活動の内容

Ⅰ、魅力発信事業

Ⅱ、支援事業

Ⅲ、環境保全事業

Ⅳ、地域自治組織設立準備事業

②活動の成果及び効果

Ⅰの魅力発信事業として、匹見上の自然や資源を活用したイベントの開催に取り組みました。７月には NPO 法人と協力して川ガキ講座を実施しました。講座では清流を活かして市内外の親子連れの参加者に沢登りやヤマメ掴み取りなど地区の自然を感じてもらいました。９月には森林インストラクターときのこ狩りを実施しました。採取したきのこをその場で選定し、食用できるきのこは、きのこ汁の具材として食しました。１１月のわがまち自慢フェアは、昨年度から地元の既存のイベントである紅葉ロードレースマラソンと同日開催をしていますが、今年度は天候にも恵まれ駐車スペースが無いほど、多くの地区内外の方が足を運んでくださり地区の PR、交流人口拡大に繋がりました。今後は駐車スペースの確保が課題に挙げられ、改善すれば、今以上に多くの集客が見込めると感じました。２月には三葛地区において、真冬の山里体験として、市内外の参加者と地元の小学生が豆腐づくり、かんじき体験など普段経験ができない体験をすることができ、事業を通じて参加者と地元小学生、連合自治会との交流が図れました。

魅力発信事業を通して各団体や地区住民と一緒になってイベント開催を行うことができ、地区の PR が出来たと思います。

（きのこ狩り）

（川ガキ講座）

（わがまち自慢フェア）

（真冬の山里体験）

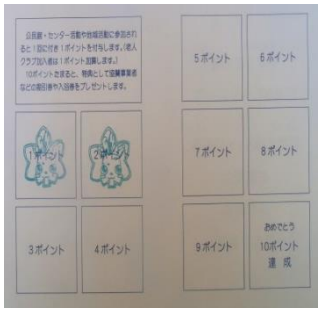
Ⅱの支援事業として、三世代交流とポイント制度に取り組んできました。三世代交流としては、合同運動会前に小学生、地元寿会、PTA と連携して小学校の校庭の草取りを通して交流するとともに、中学生に対して地元の伝統文化の継承を伝える為、地元講師を迎えて、盆踊りの太鼓・口説き・踊りを指導してもらい、その成果を盆踊り本番で講師の方と一緒になって披露し、盆踊りを盛り上げてくれました。また、夏休みを利用して、公民館を開放し、地域の方が子ども達に工作などを指導し、交流を図りました。三世代交流を通して集いの場も提供出来ました。

併せて、今年度より地元の商店・JA・温泉・観光協会・社協との協力で「ポイント制度」（匹見生き行きポイント）を開始しました。ポイント制度では地区振興センター・公民館活動や社協活動に参加されると１ポイント付与され１０ポイント貯まると温泉や地元商店で使用できる金券に交換できるシステムです。今年度から開始の制度でなかなか周知が難しいかと思っていましたが、便りなどを通じて周知した結果、地区に浸透し現在では多数の登録者になりました。住民からも「良い制度」との声があがり、住民の為に必要な継続事業となりました。

（奉仕作業）

（伝承文化継承事業）

（夏休み体験）



（ポイント制度）

Ⅲの環境保全事業の取組としては、昨年同様煙火講習の受講を促し、新規・更新も含め多数の方が受講しました。また、今年度は同日に特定外来駆除講習（箱罠）も実施しました。

併せて、今年度は支援事業費で煙火と箱罠を購入し、煙火は受講者全員に配布し、箱罠は希望者に貸し出す取組を始めました。更に、今年度は航空写真を使用し、各自治会と集落調査を行い、空き家・休耕田・鳥獣被害場所など地理情報システム（GIS）を使用して地図化しました。今後はこの地図をどの様に役立てるかが大切になってくると考えています。

加えて、環境美化活動として寿会の皆さんが春には匹見中央公園に芝桜を植栽し、秋には「紅葉ロードレース」に使用する花をプランターに植栽する活動を行いました。芝桜は花が咲くと綺麗になり、「魅力発信事業」にも繋げることが出来たと思います。

（花いっぱい運動）

（煙火講習及び箱罠講習）

Ⅳの地域自治組織設立準備事業では、今年度より委員を増員し２０名体制でスタートしました。委員会での主な協議は昨年度実施した住民との意見交換会における意見を集約するとともに、委員会でのワークショップで決まった地区の大きな３つのテーマに沿って２８年度の魅力化事業を計画・実施しました。

また、全自治会を対象に１回目の意見交換会を行いましたが、今年度も同様に全自治会を対象に２回目の意見交換会を行いました。昨年度は地域自治組織の仕組みの説明と意見交換を行いましたが、今年度は昨年度の意見交換の集約結果を報告し、その集約結果に関して協議した結果、地区のまちづくりに係る３つのテーマが決まり、そのテーマに沿って現在、準備委員会が動いている状況を報告しました。

併せて、各自治会で航空写真を使用して集落点検も行いました。集落点検では、なかなか自分達の集落を上からみる機会がないので、各自治会も盛り上がりながら集落点検に取組むことができました。更に集落点検を行うことで、自分達の自治会において、知らなかった事や改めて改善しなければならない課題が見えたことにより、住民に地域づくりの大切さが深まったのではないかと思います。

視察研修は３年目を迎え、今年度は雲南市波多地区に視察に行き、「買い物支援」などに取り組んでいる話を伺うことができました。当地区においても「買い物支援」など大きな課題の１つであり、参加された委員には大きな参考になりました。

（地域説明会の様子）

（先進地視察の様子　雲南市波多地区）

4.　残された課題と今後の提案

残された課題としては、魅力発信事業の「わがまち自慢フェア」は地元開催が２年目を迎え、地域住民も含め沢山の方に周知してもらっている中で、今年度は天候も良く会場の駐車場が沢山になり今後、駐車場の確保が課題にあげられます。この課題を解決できれば、まだ集客が見込めると思います。

支援事業については、高齢化が進む中で、伝統芸能の講師の方の人数が少なく、現在は中学生に伝承文化継承として盆踊りを継続していますが、地域の若い世代に伝えていく必要があり、中学生には、伝統芸能の文化・歴史などの学習を行い、興味をもってもらうことが必要だと感じました。

環境保全事業については、毎年煙火講習を開催し多くの方に受講してもらいますが、受講者の大半は日中仕事をもっており、日中に鳥獣が出ても対応できない事があるので、これをどう改善していくが課題になってきます。また、鹿の目撃も出始め、鹿の対策も今後の大きな地区の課題になってくると思います。

5.　地域魅力化応援隊員の活動をふりかえって

応援隊員に配属され３年目が終わろうとしています。今年度は昨年度決まった

３つのテーマに沿って魅力化事業の計画・実施を行いました。まだまだ計画・実施も事務局が中心として動いていますが、事業を通して住民の参加が増えたことは、今後の自治組織設立に向けては大きな進歩だと思いました。

また、昨年度は全自治会を対象に自治組織の仕組みと意見交換会を行いましたが、今年度は意見交換会の集約結果と併せて現在の準備委員会の動きを報告、航空写真を使用しての集落点検を行いました。航空写真を使用しての集落点検では、各自治会とも興味を持ち皆で机を囲んで地域づくりの話をすると住民の意識が醸成されるということが分かりました。

今年度は魅力化事業があり、事業を継続的に実施出来ていましたが、来年度は魅力化事業が無くなり、どう事業を実施して継続していくのかを準備委員会をはじめ住民の力やアイデアが大切になってくると思います。

平成３０年度の立ち上げに向けて、委員同士の共通認識や市との連携など地域自治組織立ち上げに向かって大事な年度になるため、周りの方々に支えてもらいながら頑張っていこうと思います。

匹見下地区

地域魅力化応援隊員　氏名　小島　雄二

平成 28 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配属部署

   匹見下地区振興センター

2. 配属年月日

   平成 27 年 10 月から

3. 活動の概要

1）活動の内容

①地域自治組織「匹見下いいの里づくり協議会」設立（平成 28 年 4 月 24 日）

山崎会長挨拶

設立総会議事

②匹見下多目的集会施設「いいの里」竣工（平成 28 年 4 月 24 日）

山本市長挨拶

竣工式

③地域自治組織委員会活動

ア）地域活性化委員会

・匹見下ふるさと祭り・・・平成 28 年 9 月
・高槻サマーキャンプ・・・平成 28 年 8 月
・U・I ターン交流会・・・2 回実施

イ）健康福祉委員会

・匹見下地区民運動会・・・平成 28 年 11 月
・支え合いマップづくり（合同）・・・平成 28 年 9 月より
・いきいき健康 100 歳体操・・・平成 28 年 11 月より

ウ）生活環境委員会

・石見交通バス体験乗車・時刻表作成・・・平成 28 年 9 月より
・支え合いマップづくり（合同）・・・平成 28 年 9 月より

・鳥獣駆除花火講習会・・・平成 29 年 3 月

エ）その他の活動

・「いいの里づくり協議会」だより作成（1 号～5 号）

・とちの実交流会・・・平成 28 年 11 月

・地域づくり講演会・・・平成 29 年 2 月

・「ひとまろ君が行く」匹見下紹介・・・平成 29 年 3 月

・匹見峡温泉活性化プロジェクト・・・月 1 回会合

高槻市サマーキャンプ

支え合いマップづくり

U・I ターン交流会

とちの実交流会

石見交通バス乗車体験

健康教室

２）活動の成果及び効果

①地域自治組織「匹見下地区いいの里づくり協議会」が設立されたことにより、地区住民の地域自治組織に対する関心や認識が深まった。そして、設立の過程で明らかになった地区の課題への取り組みが始まった。

②地域自治組織の活動拠点「多目的集会施設　いいの里」が同時に竣工し、地域自治組織の各種会合や事業活動だけでなく、地区住民のサロン活動・講演会・災害時（台風 18 号）の避難場所など地区住民の重要な活動施設として度々活用された。

③地域自治組織における「地域活性化委員会」「健康福祉委員会」「生活環境委員会」の 3 委員会は、設立時の事業計画に基づき、それぞれの課題や事業への取組を具体的に実施してきた。

ア）「匹見下ふるさと祭り」や「高槻市サマーキャンプ」などの交流事業を通じ、匹見下地区をアピールすることができた。

イ）「U・I ターン交流会」を開催することにより、U・I ターンした人達の匹見下への様々な思い・要望を直に話すことができた。さらに、U・I ターン者同士の交流会も企画することとなった。

ウ）健康福祉・生活環境の合同委員会で実施した「支え合いマップづくり」は、地区住民の個々が抱える問題を地区住民で共有し、互いに支え合う必要性を認識し、全地区のマップを作成した。

エ）「匹見下地区民運動会」や「いきいき健康 100 歳体操」を通じ、自分の健康を自分で管理するといった地区を挙げての取組となった。

オ）交通不便対策は、匹見下地区の大きな課題だが、公共交通の有効活用に取り組むこととなった。

カ）「地域づくり拠点整備事業」のため、まちづくり特別補助金を申請し、パソコン・冷蔵庫・洗濯機等の整備を行うことができ、それぞれの事業遂行に活用している。

4. 残された課題と今後の提案

1）残された課題

①事業内容の仕訳と絞り込みの必要性

②地域自治組織の意義と組織体制の見直し

③地場産業の育成

④事業内容と事業予算の拡充

2）今後の提案

①事業内容の仕訳と絞り込みのために

・地域自治組織の事業として、やりたい事とできる事との区別をつけ、実行すべきことの優先順位をつける。

・匹見下の人口や構成等から考え、新規事業は3件くらいが妥当ではないか。

②地域自治組織の意義と組織体制の見直しのために

・過疎高齢化の進んでいる匹見下地区において、様々な活動を重複して担っている地区住民の負担軽減と効率化を図るため、見直しを行う必要がある。事業内容の見直しと並行し、各種組織の統廃合の検討が必要。

・歴史的にも地理的にも密接な関係のある道川地区、匹見上地区、匹見下地区の 3 地区は、将来的には統合したほうが良いのではないか。

③地場産業の育成ために

・目立った地場産業のない匹見下地区は、雇用や定住促進、経済力の向上や地区住民の生きがい対策を図るためには、匹見下地区に密着した地場産業の育成が課題。

・例えば、現在使用不可となっている旧匹見下地区振興センターを食品加工場や木工細工の工房などとして再利用することが可能であれば、投下資金を最小限に抑え、匹見下地区の事業センターとして活用できる。

④事業内容と事業予算の拡充のために

・財政基盤の弱い匹見下地区においては、活動資金の確保が必要なため、各種補助金以外にも、収益事業、寄付金等の自己資金の確保を目指す。

・匹見 3 地区が協力して匹見峡温泉を核にして地場産業の活性化を図るなど連携した活動がより効果を増す。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

・匹見下地区に配属後、1 年余り経過した。この間、匹見下地区の皆様の念願であった地域自治組織「匹見下いいの里づくり協議会」が設立され、匹見下多目的集会施設「いいの里」が竣工した。新しい組織が、新しい施設で、新たな意気込みをもって、匹見下地区のまちづくりの活動を開始した年となった。

・私自身、多くの地区の皆様の知遇を得て、様々な地区の活動に参加することができるようになった。自分の居住する益田市の市街地区域と違い、地区住民間の関

係性や協調性は強く、あらゆる活動への住民の参加意識が高く、その拠り所となる地区振興センターや公民館の持つ役割の重要性が実感できるようになった。また、この地区の９０％以上を占める森林や清らかな河川などの自然が様々な恵みをこの地にもたらすとともに、風水害や雪害、鳥獣被害など、住民の生活に圧倒的な影響力を持って存在することも実感した。

・多くの活動に参加すればするほど、匹見下地区の課題が明らかになり、過疎高齢化の進展と相まって、対策が急務となっていると感じる。この１年で、匹見下地区の住民数も更に 20 人減少し、高齢化率も６６％を超えた。多くの課題を前にして、手探り状態で活動している地域自治組織の進むべき方向が明確にできないまま経過した思いだ。

・更にもう１年この地区で活動することになったが、匹見下地区の現状は、益田市の未来であり、日本の未来でもあると考えられる。匹見下地区の住民の関係性の深さや、自然の恩恵を常に実感できる地区性は、地域自治組織の活動をするうえで大切な財産であり、地区の皆様とともに明日の匹見下地区をつくるため、大いに活用して地域自治組織２年目に臨みたい。

道川地区

地域魅力化応援隊員　氏名　高田　純子

平成 28 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署
   道川地区振興センター

2. 配置年月
   平成２６年４月

3. 活動の概要
   ①活動の内容
   ■地域自治組織活動支援
   ☆組織運営の支援
   ・「道川地域づくりの会」を構成する各種団体及び地域住民の連絡、調整、会議、運営の支援、研修会、講演会等の調整、実施。
   ☆まちづくり計画及び活動計画に沿う活動の支援
   ・賑わいづくり　・ひとづくり　・暮らしの安心づくり
   ☆道川小学校閉校に伴う協議、記念事業の支援
   ・記念事業（記念式典、記念碑、記念品、記念誌）に係る協議、実施
   ・跡地利用に関する協議
   ☆県「小さな拠点づくり」事業
   ・現場支援スタッフとの地区調査、集落点検、・・・現状と課題の共有

   ②活動の成果及び効果
   ■各種会議、研修会の実施
   ☆役員会、全体会議　企画委員会　　☆各種地域活動企画会議

☆学校再編対策協議会協議、道川小学校閉校記念事業実行委員会議

■《賑わいづくり》交流人口増、定住

☆美濃地屋敷、産直市「出合の里」を活動拠点とし、加工販売、イベント、体験活動を実施。地域資源（農と食、伝統、文化）を活かし、各活動団体の強みを組み合わせ、お越し頂いたお客様に、道川の暮らしの一端に触れていただいた。リピーターも増えており、事業として定着している。
いずれのイベントも天気に恵まれ、３００人を超える大盛況であった。

美濃地屋敷：春、秋　年２回のイベント、菊花展実施、精進料理の提供

出合の里：春、秋年２回イベント、農産加工品の新規出荷者の促進活動

田舎体験：外国からのお客様受け入れ　美濃地屋敷見学、そば打ち体験、神楽鑑賞

☆情報発信

地域づくりの会のホームページを作成。
作成にあたって、地域の魅力、情報の収集過程において住民同士に新たなつながりが出来始めている。
広報担当にＨＰ操作等の勉強会を実施しながら、随時更新を行い、徐々に内容が充実してきている。
各団体より、詳細な情報,タイムリーな情報を提供してもらいながら、より地域の魅力を掘り起こしていきたい。

http://michikawa.info

■《ひとづくり》地域の繋がりを強める活動、人材育成

☆講演会の実施

H28.6　講師：海士町　山内道雄町長

演題：「ないものはない!!離島からの挑戦」

H29.2　講師：愛媛県双海町　若松進一氏

演題：「まちづくりの新たな風」

☆地域内交流活動（世代間交流）

H28.11　親睦交流会講演会「笑いでつなぐ地域の輪」講師：桂　歌若さん

8/13　盆踊り

9/25 地区民連合運動会

12/10 三世代交流会

■《暮らしの安心づくり》高齢者支援、助けあいのネットワークの構築

☆見守りや声がけ、買い物バスツァー、配食サービス等、高齢者の平常時の暮らしを支援。「集まる」「外出」を避ける方が増えてきた。

買い物バスツァー

配食サービス・声がけ

生協商品説明会

☆非常時の災害に備えて、現在、社協、住民福祉課、危機管理課等が行っている支援や仕組みを調査。現状を共有することからスタートし、来年度の実践に向けて地域防災の仕組みを検討し、準備を進めている。

4. 残された課題と今後の提案

昨年度末、地域自治組織設立に向けての協議を終了し、４月に「道川地域づくりの会」を設立し、５月に市より地域自治組織として認定を受け、活動がスタートした。月１回のペースで企画委員会を実施。企画委員は、３０代から５０代を中心に構成されており、活発な話合いで会議を進めてきた。

一年目ということもあり、地域の中での組織の役割が明確にならず、運営体制の問題点も浮かび上がった。が、この新たな組織が大きく、強く、地域に根ざした組織となるための第１ステップと考える。効果的に発展していくよう、ひとつひとつを丁寧に納得のいくまで話し合い、改善、実践を重ねていくことが重要と考える。

高齢化が進み、「集まる」ことを避け、家にこもる方が多く見られる様になってきた。これまで、なんとか引っ張りだすことを行ってきが、次の段階に突入したようだ。地域でどこまで支えられるのか、どこまで、状況の変化に対応していけるのか、手探りの取り組みは、今後も長く続きそうである。

来年度より、今度末で廃校となる道川小学校の跡地利用について本格的な協議がはじまる。現在、多様な活用案が出されているところだが、地域の拠点強化を図るためには、老朽化した周辺施設や環境整備も一体的に考える必要があると考える。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

自治組織の設立と小学校の閉校が同じ年度に行われ、スタートと終わりを同時に進めるという、なんとも複雑な気持ちでしたが、新たな地域づくりがなぜ必要なのか、その第一歩にふさわしい状況だったともいえます。

このような時期に、県の「小さな拠点づくり」の現場支援地区に選定され、地域に不足するマンパワーの支援を頂いたことは、なんと心強かったことでしょう・・・。

会議、会議の連続で、「なんと、出ごとが多い！」といった声も聞かれましたが、地域の決めごとは、みんなで納得して進めなければなりません。自分自身の力不足を実感するも、集まる機会が多かったことで、新たな組織運営の中での自分の役割も明確になった感があります。

「多様な世代が集まって、話し合う場」が増え、これまで、気付かなかったこと、知らなかったことを「わかりあう」ことが、この自治組織設立の大きな成果なのかなと思います。

○地域魅力化応援隊員事業実施要綱

平成２６年４月１日
益田市告示第７７号
改正　平成２７年６月１２日告示第１５０号

（趣旨）

第１条　この要綱は、地区振興センター等を中心とした区域（以下「地区」という。）において、人口減少、少子高齢化等により集落や自治会単位では地域運営が困難となりつつある状況を踏まえ、地域運営を主体的に行う新たなコミュニティの創設及び地域の魅力の創造（以下これらを「地域魅力化」という。）に向けて、地区における当該コミュニティの設立を支援し、並びに地域住民が抱える地域課題の整理及び情報の共有化による住民自治機能の充実や機能強化を支援するため市が設置する地域魅力化応援隊員（以下「応援隊員」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

（配置）

第２条　市長は、地域魅力化に向けて次の各号のいずれかの事業を実施する団体の存する地区の地区振興センターに応援隊員を配置することができる。

(1)　益田市地域魅力化プロジェクト事業補助金交付要綱（平成２６年益田市告示第７６号）の規定による補助金の交付対象となる事業

(2)　地域自治組織設立支援等事業補助金交付要綱（平成２５年益田市告示第８３号）の規定による補助金の交付対象となる事業

２　市長は、前項のほか、益田市地域自治組織の設立認定に関する要綱（平成２７年益田市告示第１１号）第５条第２項の規定による設立認定を受けた地域自治組織（以下「認定地域自治組織」という。）が存する地区の地区振興センターに応援隊員を設置することができる。

（任命）

第３条　市長は、公募又は第２条各号に規定する事業を実施する地区からの推薦により、地域の実情に精通した者、地域コミュニティの構築に意欲をもって取り組む者又は地域の活性化の推進に関して知見を有する者の中から、応援隊員を任命する。

（身分）

第４条　応援隊員の身分は、地方自治法（昭和２２年法律第６７号）第１７２条第３項ただし書及び地方公務員法（昭和２５年法律第２６１号）第３条第３項第３号に規定する非常勤の嘱託員とする。

（任期）

第５条　応援隊員の任期は、１年以内とし、再任用を妨げない。

（所掌事務）

第６条　応援隊員は、配置される地区における第２条第１項各号に掲げる事業を実施する団体又は認定地域自治組織の活動の支援に関する事務を所掌する。

（報告）

第７条　応援隊員は、毎月前条に規定する事務について、地域魅力化応援隊員業務報告書（別記様式）を作成し、業務内容を証する資料を添えて、翌月１０日までに市長に提出しなければならない。

（その他）

第８条　この要綱に定めるもののほか必要な事項は、市長が別に定める。

附　則

（施行期日）

１　この告示は、平成２６年４月１日から施行する。

（有効期限）

２　この告示は、平成２９年３月３１日限り、その効力を失う。

附　則（平成２７年６月１２日告示第１５０号）

この告示は、平成２７年６月１２日から施行する

発　行　平成２９年３月
発行元　益田市政策企画局人口拡大課
〒６９８－８６５０　島根県益田市常盤町１番１号
TEL　０８５６－３１－０６００
FAX　０８５６－２３－７７０８
E-Mail：jinkokakudai@city.masuda.lg.jp